韓国語動詞の過去形と日本語の「Vテイタ／タ」をめぐる対照研究方法論

—日本語・中国語・フランス語の視点から—

A Methodology for a Contrastive Study of the Past Tense Forms of Korean Verbs and "V *teita*／*ta*" in Japanese

: From the Point of View of Japanese, Chinese and French

成戸　浩嗣　Koji　NARUTO
（現代マネジメント学部）

抄　録

動詞の過去形を用いた韓国語表現の中には、「V**テイタ**」を用いた日本語進行表現との間に対応関係が成立する

(1) 그 때 나는 한창 술을 **마셨다**. ／その時私はさかんにお酒をのん**デイタ**。
（高正道 1986:48 を一部修正）
(2) 아버지는 신문을 **읽으셨다**. ／父は新聞を読ん**デイタ**。（『新装版 韓国語文法辞典』:5 を一部修正）
(3) 우리는 비바람이 그치기를 **기다렸다**. ／我々は雨風が止むのを待っ**テイタ**。（同上"-를/을"の項）
(4) 이곳은 비가 **왔습니다**. ／こちらは雨が降っ**テイマシタ**。
（『엣센스 韓日辭典』"있다"の項を一部修正）
(5) 개울 바닥이 눈에 덮여 희게 **빛났다**. ／小川の川床が雪に覆われ、白く輝い**テイタ**。
（『韓国語文法 語尾・助詞辞典』"-아 3"の項を一部修正）

のようなケースが存在する。このような対応例には韓国語動詞過去形、日本語「V**タ**」の使用条件の相違が反映されており、日本語であれば「V**テイタ**」によって表わされる出来事の領域にまで韓国語動詞過去形の働きがおよんでいることがうかがわれる。

成戸 2020 では韓国語動詞の現在形、"-고 있다"形、"-아/어 있다"形と日本語「V**テイル**」との対応関係に着目して対照作業を行ない、これらに対応する中国語の"V…呢"、"在V"、"V着"や、フランス語動詞の現在形、"être en train de＋不定詞"などとも比較しつつ、発話時における進行、状態に関わる諸形式について考察するための着眼点、分析方法、予測される結論などを探った。一方、過去（＝発話時以前）における進行、状態に関わる韓国語の表現形式としては動詞の過去形、"-고 있었다"形、"-아/어 있었다"形、さらには過去完了形などが存在し、日本語「V**テイタ**」との間に対応関係が成立するのであるが、進行、状態をめぐる両言語間の相違の全貌を明らかにするためには、これらの諸形式をも含めた対照作業が不可欠である。また、成戸 2021 でとり上げた韓国語動詞過去形と日本語「V**テイル**」の対応関係は、過去形と「V**テイタ**」の対応関係に何らかの形で連動している可能性があり、この点についても検討を行なう必要がある。

本稿は、動詞の過去形を用いた韓国語表現、「V**テイタ**」を用いた日本語進行表現の対応関係をはじめとして、"-고 있었다"形、"-아/어 있었다"形、過去完了形を用いた韓国語表現、「V**タ**」、「V**テイル**」を用いた日本語表現、さらには「V**テイタ**」との対応関係が成立する"V**了/着/过**"を用いた中国語表現、動詞の複合過去形、半過去形、大過去形、"être(半過去形) en train de+不定詞"を用いたフランス語表現とも比較しながら、過去における進行、状態に関わる日韓諸形式の働きについて考察するための着眼点、分析方法、予測される結論などを探ることを目的とする。

キーワード

過去形(past tense form)　進行(progress)　状態(state)　テンス(tense)　アスペクト(aspect)

目　次

1　韓国語動詞過去形と日本語「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
1.1　日本語における「Ｖタ」、「Ｖテイタ」の使い分け
1.2　韓国語動詞過去形が表わす進行、非進行
2　韓国語動詞の過去形、“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
2.1　韓国語動詞の過去形、“-고 있었다”形と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
2.2　韓国語動詞の過去形、“-아/어 있었다”形と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
2.3　テンス、アスペクトに関わる日韓諸形式
3　韓国語動詞の過去形、過去完了形と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
3.1　韓国語動詞の過去形、過去完了形
3.2　韓国語動詞の過去完了形と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
3.3　韓国語動詞の過去完了形と“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形
3.4　韓国語動詞のテンス・アスペクト形式と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
4　中国語、フランス語の表現形式との比較
4.1　中国語の“Ｖ了/着/过”と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
4.2　フランス語動詞の複合過去形、半過去形、大過去形、“être(半過去形) en train de＋不定詞”と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」
5　おわりに

1　韓国語動詞過去形と日本語「Ｖタ」、「Ｖテイタ」

1.1　日本語における「Ｖタ」、「Ｖテイタ」の使い分け

韓国語動詞過去形の用法について、入門・初級のテキストでは

(6)　차를 탄 사이에 그것에 대해서 이야기 **했습니다.**
／車に乗っている間に、そのことについて話しまし**タ**。(浅井 2009:157)

(7)　어제 친구를 **만났어요.**
／昨日友達に会いまし**タ**。(石賢敬 2014:61)

のような日本語「Ｖタ」との対応例を用いて説明されるのが一般的であるが、前述したように、「Ｖテイタ」が対応する(1)～(5)のようなケースもみられる。(1)～(3)は動作、(4)～(5)は現象を表わしており、いずれも継続可能な出来事である。これらの対応例からは、韓国語では発話時以前に進行中の動作(or 現象)を前提とした表現に過去形が用いられるケースが存在すること、(6)～(7)のような対応例は両形式の典型的用法にみられる対応パターンであることがみてとれよう。(1)～(5)のような対応関係は、成戸 2020 でとり上げた韓国語動詞現在形と日本語「Ｖテイル」との対応関係成立の場合と同じく、両言語間で対応するとされる動詞の性格の相違と表裏一体をなしていることも予測され、これらを明らかにするための分析作業を行なうに先立っては、「Ｖタ」、「Ｖテイタ」の基本的相違を確認しておくことが不可欠である。

(1)～(5)の日本語表現における「飲ん**デイタ**」、「読ん**デイタ**」、「待っ**テイタ**」、「降っ**テイマシタ**」、「輝い**テイタ**」を「Ｖタ」に置き換えて

(1)’その時私はさかんにお酒をのん**ダ**。
(2)’父は新聞を読ん**ダ**。
(3)’我々は雨風が止むのを待っ**タ**。
(4)’こちらは雨が降りまし**タ**。
(5)’小川の川床が雪に覆われ、白く輝い**タ**。

とすると自然な表現として成立はするものの、進行

の意味はなくなる。このことは、出来事を時間軸上の点、線のいずれとして表わすかにおける「V**タ**」、「V**テイタ**」の基本的相違に起因するのであり、特に(5)’の場合には一瞬もしくは短時間の出来事というニュアンスが感じられるという形で鮮明にあらわれている。「V**タ**」、「V**テイタ**」については、『日本語文法事典(「動詞[2]」の項)』が、

(8) 太郎が次郎をなぐっ**タ**。
(『日本語文法事典』「動詞[2]」の項)

は運動をひとまとまりとしてとらえている(単純相)のに対し、

(8)’太郎が次郎をなぐっ**テイタ**。(同上)

は運動を時間的な幅の中でとらえている(持続相/継続相)という違いがあるとしているほか、井上2001:102-105には、動態述語「**スル／シタ**」は「**シテイル／シテイタ**」の形式にすることにより状態述語化されるが、前者は「出来事を一つの閉じた(完結した)まとまりとして述べる形式」、後者は「ある設定時点の前後に開かれた形で存在することを述べる形式」である旨の記述がみられる[1)]。このことは、

(9) 部屋の前を通った時、彼は笑っ**タ**。
(同上「動詞[1]」の項)

(9)’部屋の前を通った時、彼は笑っ**テイタ**。
(同上)

のようなケースをみれば理解しやすい。表現の前提となる客観的事実として、(9)の場合には「部屋の前を通ったら、(その時)彼は笑い出した」のような状況が、(9)’の場合には「部屋の前を通る以前から彼は笑っていた」のような状況が想定されることから、「笑っ**タ**」は部屋の前を通った時点における出来事を、「笑っ**テイタ**」はその時点以前も含んだ幅のある時間内における出来事を表わしていることがみてとれる。このように、「V**タ** ── V**テイタ**」は「V**ル** ── V**テイル**」の場合と同じく出来事を時間軸上の「点 ── 線」として表現し分けるペアをなしているのであるが[2)]、同一の客観的事実を前提としていても話者のとらえ方の相違により「V**タ**」、「V**テイタ**」が使い分けられるケースも存在する。この点については、寺村1984:144-145における「日本語のテンスとアスペクトが、客観的な事実が点か幅かというのでなくて、話し手がその事実をどう見るかに関わっているものだ」という記述にも示されており、「V**タ**」が点的に、「V**テイタ**」が線的に出来事を表わす形式であるとはいうものの、現実の時間軸上における「点 ── 線」の相違とは異なるレベルでいずれを用いるかの選択がなされることもめずらしくないのである。このような使い分けは非日本語話者には理解しづらいものであり、同書も、実際には幅のある時間内に行なわれた行為であっても、他の行為と並べて連続した出来事として(＝時間軸上の点として)述べるために「V**タ**」を用いるべきところを「V**テイタ**」を用いる誤用が中国語話者にしばしばみられるとして

(10) ?…。その夜、山之上旅館で泊まっ**テイタ**。翌日の朝、早く起きて、山にのぼった。
(寺村1984:144)

を挙げ、「V**テイタ**」を用いるのにふさわしい例としては

(11) 山之上旅館に泊まっ**テイタ**。夜中に地震があって、皆とび起きた。(同上:145)

を挙げている[3)]。

1.2 韓国語動詞過去形が表わす進行、非進行

(1)～(7)の韓国語表現についてネイティヴ・チェックを行なったところ、(1)～(5)は進行を表わすほか日本語「V**タ**」と同じく非進行に解することも可能であり、「V**タ**」との対応例として挙げた(6)、(7)は進行に解することも可能であるという判定結果であった。チェック作業の過程では、進行に解することが可能か否か(or 進行、非進行のいずれに傾いているか)の判断がゆれるケース、進行に解することは可能であるものの“-고 있었다”形式をとる方がbetter とされるケースなどがみられ(このような判断はインフォーマントによって微妙に異なる可能性がある)、これらのことは、例えば

(12) 나는 어제 영화를 **보았다**.
(私は昨日映画を見ました。)
(成戸2021の(3)、石賢敬2014:61)
※カッコ内日本語は筆者

はこのままでは進行の意味に解されないが、“그때(その時)”を加えれば(1)と同じく進行にも解されるようになり((1)は「非進行よりも進行に傾いている」と判断された)、“보았다”を해요体の“보았어요”に置き換えれば(7)と同じくやはり進行にも解されるという判断結果にあらわれている。前者は、動詞の現在形を用いた進行表現にしばしば“지금(いま)”が用いられることに通じると考えられ、後者からは、判断の際に文法規範が強く意識されれば「V**タ**」との対応関係が優勢となり(その場合「V**テイタ**」と対応するのは“-고 있었다”形とされる)、それほど強く意識されない非格式体(해요体)のような話し言葉的形式の場合には「V**テイタ**」との対応も許容されやすいことがみてとれそうである。これらはいずれも、出来事を時間軸上の点として表わす働きの強さにおいて韓国語動詞過去形は日本語「V**タ**」におよばないことを示している。但し、この点については、成戸 2021:40 で紹介した井上・生越 1997:48 の記述、すなわち「『-**タ**』は発話時点において状況が知覚された(or 開始された)最初の瞬間だけをとりあげて独立の過去の状況として叙述することが容易であるのに対し『-ess-』はそれができない」や、許宰硯 2004:14 が「韓国語の『eoss』は、発話時以前に動きが完結していないと、使いにくいようである」としていることと矛盾しないようにしなければならず[4]、後述の「完了持続性」という用語に象徴されるように「完結したものとして表わす」、「時間軸上の線として表わす」が必ずしも排他的な関係にはない点を確認しながら論をすすめていく必要がある。出来事を時間軸上の点として表わす働きの強さが「V**タ**」におよばない韓国語動詞過去形の特徴を端的に示すのが、(5)と同じく情景描写の表現である

(13) 아오마메는 뒷좌석 깊숙이몸을 묻고
가볍게 눈을 감은 채 음악을 **들었다**.
／青豆は後部席のシートに深くもたれ、軽く目をつむって音楽を聴い**テイタ**。
(李忠均 2010:24、『1Q84』)

のようなケースであり、「聴い**テイタ**」と対応させることにいささかの不自然さもないばかりか、「聴い**タ**」を対応させるよりも better である。

ところで、動詞の過去形を用いた英語表現の中には、日本語「V**テイタ**」表現との間に対応関係が成立する

(14) Multitudes of refrigerators and food freezers **ran** unceasingly.
／無数の冷蔵庫や冷凍庫が休みなしに稼動し**テイタ**。(國廣 1982:16)

のようなケースがみられる。國廣 1982:16-17 は、英語動詞が「継続的」であるためにその過去形と日本語「V**テイタ**」が対応する例として(14)をはじめとするいくつかのケースを挙げた上で、英語の過去テンスには「完了アスペクト」が含まれているが、日本語動詞のタ形ほど「完了性」が強くないとしているのであるが、過去形が進行の意味に解されることがある点においては韓国語動詞の場合と共通しており、日本語「V**タ**」との相違や「V**テイタ**」との対応関係を考えるためのヒントが得られそうである。このことは、高正道 1986:47-48 が単純相過去形(～했다(haetta))について「アスペクト的には基本的に Perfective の意味をもっていて、動き動詞は、その動きを一まとまりとして、変化動詞はその変化を一まとまりとして表す」とした上で、Imperfective の用法については「それが基本的な意味であるかどうかは、はっきりしない」として韓国語動詞過去形と日本語「V**テイタ**」の対応例を挙げていることや[5]、許宰硯 2005:100-101 に、韓国語動詞過去形は「完了性」、「持続性」を兼ね備えている、すなわち同:95 にいう「完了持続性」を備えているのに対し、日本語「V**タ**」は備えていないことが両者の対応関係成立に影響している旨の記述がみられることからもみてとれる。過去形が備えている「完了持続性」により、同形式が出来事を時間軸上の点として表わす働きの強さにおいて「V**タ**」におよばない、発話時以前における動きの完結を要求する傾向が強いという、一見相反するかにみえる特徴の間に矛盾はないことが担保されていると考えられる。時間軸上の線として存在する出来事を表わすのに用いられることを(積極的ではないにせよ)許容するという点において、韓国語動詞の過去形が英語動詞の過去形と同じく日本語「V**タ**」との間に一線を画しているということは、同:102 に挙げられている

(15) 선생님께서 강의를 {하**고 계셨**는데/**하셨**는데}, 어떤 학생이 손을 들어 질문했다.
／先生が講義を {し**テイラッシャッタ**/＊な**さっタ**} が、ある学生が手を上げて質問

した。（許宰硯 2005:102）

のような対応例において鮮明にあらわれている。(15)の日本語表現は、「V**テイタ**」を用いるのにふさわしいケースとして寺村 1984:145 が挙げている(11)と同じく、ある出来事が進行中に他の出来事が生じたという内容を表わしているのであるが、このような場合に韓国語では進行アスペクト形式である“-고 있었다”のみならず、過去形を用いることもできるのである。このように、韓国語動詞過去形が進行、非進行のいずれを表わす働きをも有するということは、「～**シタ**」という意味のほかに「～**シテイタ**」という意味を潜在的に含んでいる(＝進行の意味を内包している)ということであり、成戸 2020:57 で述べた韓国語動詞現在形の特徴(「～**スル**」という意味のほかに「～**シテイル**」という意味を潜在的に含んでいる)と同様のことが過去形にもあてはまるということである。同:52 でふれたように、韓国語動詞の“動詞の語幹＋ㄴ다(는다)”すなわち現在形や“動詞の語幹＋ㅂ니다(습니다)”は辞書形(基本形＝動詞の語幹＋다)とは別個に存在し、進行専用の形式ではないものの進行を表わすことが可能であり、この点は非格式体である“해요”体の場合も同様である。このため、現在形とならんでテンスの系列を構成する過去形が進行の意味を内包しているとしても不自然ではなく、「発話時以前に進行中であった動作(or 現象)を表わす」という過去形の働きもここから生じているのではなかろうか。これらの考察過程においては、過去の進行に解される可能性と해요体であることとの関連性がうかがわれる(12)のようなケースにも目配りをし、進行を表わす過去形の用法が現在形の場合と同じく、話し言葉において用いられる傾向がある(or 話し言葉的な色彩を帯びている)ものなのか否かについても確認しながら分析作業をすすめていく必要があろう[6]。

2 韓国語動詞の過去形、“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形と日本語の「Vタ」、「Vテイタ」

2.1 韓国語動詞の過去形、“-고 있었다”形と日本語の「Vタ」、「Vテイタ」

過去に進行中であった動作(or 現象)を表わす韓国語の表現形式としては過去形のほか、他動詞と組み合わせて用いられる“-고 있었다”があり、日本語「V**テイタ**」と対応する以下のようなケースがみられる。

(16) 그 때 그는 한국어를 배우**고 있었다**.
／その時かれは韓国語を勉強し**テイタ**。
（菅野 1986:69 を一部修正）

(17) 친구가 찾아왔을 때 저는 텔레비전을 보**고 있었어요**.
／友人が訪ねてきた時、私はテレビを見**テイマシタ**。
（『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項）

(18) 역에서 한참 기다리**고 있었어요**.
／駅でしばらく待っ**テイタ**んです。
（イム・ジョンデ 2004:65）

(19) 어젠 나가서 한 시까지 술 마시**고 있었어요**.
／昨日は外に出て 1 時まで酒を飲ん**デイマシタ**。(NHK2004 年 6 月:52、72)

(20) 그는 마당에 앉아 흙장난을 하**고 있었다**.
／彼は庭に座り、泥遊びをし**テイタ**。
（『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-아[3]”の項）

(21) 여자는 유심히 내 얘기를 듣**고 있었다**.
／女は注意深く私の話を聞い**テイタ**。
（同上“-고[4]”の項）

(5)” 개울 바닥이 눈에 덮여 희게 빛나**고 있었다**.
／小川の川床が雪に覆われ、白く輝い**テイタ**。(同上“-아[3]”の項)

これらの対応例のうち、(18)、(19)は出来事が続いた時間的な幅を表わす「しばらく」、「1 時まで」を含んでおり、(20)、(21)、(5)”は情景描写の表現である。これらのことは“-고 있었다”形の使用と関わりがありそうである。すなわち、前者は言うまでもなく出来事が時間的な幅をもっているため、後者は出来事を目の前に展開中のものとして生き生きと描写するために、それぞれ“-고 있었다”形が選択されているとみることが可能である[7]。但し、過去形、“-고 있었다”形は必ずしも排他的な関係にあるのではなく、例えば

(22) A：근데 어제는 누구하고 마시**고 있었어요**？
(それで昨日は誰と飲んでいたんですか。)
B：내가 가르치는 학생하고 조금 **마셨어요.**
(私が教えている学生とちょっと飲みました。)　(NHK2004 年 6 月:56、72)

の対話には両形式が登場する。原典では、(22)の後に発話時について述べる

(23) A：아, **요즘도** 학원에서 일본어 **가르쳐요**？
(ああ、最近も塾で日本語教えているんですか。)
B：**지금은** 어떤 대학원생을 개인적으로 가르치**고 있어요.**
(今はある大学院生を個人的に教えています。)　(同上)

という対話が続いており、(22)におけるBの発話で用いられている“마셨어요”が NHK2004 年 6 月:56 において「飲ん**デイマシタ**」の意味に解することも可能であるとされていることとも考え合わせると、動詞の現在形が“-고 있다”形と同じく「発話時において進行中の出来事」を表わすことが可能であるように[8]、過去形が「発話時以前において進行中の出来事」を前提として用いることができるにとどまらず、そのような出来事を表わす働きを有するとみられていることが理解できよう。ネイティヴ・チェックでは、(22)のAの発話においては“마시고 있었어요”よりも“마셨어요”を用いる方が better であり、Bの発話における“마셨어요”は“조금(ちょっと)”と共起しているため“마시고 있었어요”に置き換えることができないとされた。

また、成戸 2020:51-53、55 では、現在形は進行、非進行のいずれを表わすことも可能であるのに対し、“-고 있다”形は進行中であることをとりたてて述べる場合に用いられる点について述べるとともに、“-고 있다”形の成立がかなり新しいものであって、若い世代の間では現在形よりも多用される傾向にあるのは日本語の影響によるものであるという管野 1986:62、同 1990:120 の記述について紹介した[9]。進行をとりたてる働きは“-고 있었다”形にも備わっており、このことは、

(24) **지금** 무엇을 **합니까**？
── 한국어를 공부**해요.**
(今何をしていますか。── 韓国語を勉強しています。)
(成戸 2020:63、『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』)

のような進行表現が成立する一方で、

(25) A：엄마, 뭐 **하셨어요**？
(お母さん、何してたの？)
B：밥 **먹었다.** (ご飯食べてたのよ。)
(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-는다[1]”の項を一部修正)

のような過去形を用いた進行表現が成立することと表裏一体をなしていると考えられる。

過去形と“-고 있었다”形の相違が端的にあらわれているのが

(26) (妻が約束の時間に遅れて待ち合わせ場所にやってきた)
늦었니. 뭘 **했어**？
?? 늦었니. 뭘 **하고 있었어**？
(遅いじゃないか。何やってたの？)
(井上・生越 1997:50)

のようなケースであり、井上・生越 1997:50 は“-고 있었다”形を用いた表現を不自然としている。(25)～(26)のようなケースでは、進行中であったことよりも「뭐/뭘(何/何を)」の部分に比重が置かれてい

るために過去形が選択されているとみることができそうである[10]。同様のことは(22)におけるAの発話についてもあてはまり、インフォーマントの判断で過去形“마셨어요”を用いる方がbetterとされたのは、“누구하고(誰と)”の部分に比重が置かれていることによると推察される。このような使い分けは、高正道1986:48が

(27) 어제 9시에 뭐 **했**니？ ── 공부**했어**.
(昨日九時に何をしてたの？ ── 勉強してたよ。) (高正道1986:48)

について「韓国人留学生10人に質問した結果、9人は～했다 haetta の形で、1人だけが～하고 있다 hago-itta の形で答えた」としているようにあくまで傾向であって、成戸2020:53において“뭐(何)”、“무슨(何の/どんな)”などの疑問詞を用いた問いかけの表現あるいはそれらに対する返答で“-고 있다”の使用が排除されない点について述べたと同じく、“-고 있었다”形の使用も完全に排除されるものではない。このことは、許宰硯2005:89、101に

(28) (会社から帰ってきた夫がベルを何回も鳴らしても出て来ない。しばらく経った後で、妻がドアを開けると、夫から「何してた？」と聞かれて)
식사 준비를 {하**고 있었어요**/**했어요**}.
(食事の支度をしてたの。)
(許宰硯2005:89、101)

のような「何をしていたのか」に対する返答においては過去形、“-고 있었다”形のいずれも許容されるとする記述がみられることによっても裏づけられるのであるが、(26)～(27)についての井上・生越1997、高正道1986の記述、(28)についての許宰硯2005の記述を見比べてみると、表現の自然さの度合いについてのネイティヴの判断が微妙にゆれることや、判断結果の解釈の難しさがうかがわれるのである[11]。

(6)～(7)のような日本語「Vタ」との対応例に示されるように、韓国語動詞過去形は過去の進行を表わすのに特化した形式ではなく、「進行に特化した形式ではない」という点において現在形の場合と同様である。1.1で述べたように、入門・初級テキストにおける過去形の用法説明は、(6)～(7)や

(29) A：어제 뭐 **했어요**？
／昨日、何をしましタか？
B：집에서 책을 **읽었어요**.
(＊집에서 책을 읽**고 있었어요**.)
／家で本を読みましタ。
(『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項)

のような「Vタ」との対応例を示してなされるのが通例である一方、過去の進行を表わす表現に解することも可能なケース((6)、(7)はこれに該当)が存在する。(29)のBの発話におけるカッコ内が不成立とされているのは、非進行表現であるという前提があること、「何を(しましたか)」に対する返答であることが影響していると推察される。これらは、『標準 韓国語文法辞典(“-고 있다”の項)』が「ある特定の時点ではなく、単純に過去に行われた動作や行為を表す場合は“-고 있었다”ではなく、過去形“-았다/-었다”を用いなければならない。“-고 있었다”は、その動作の進行が行われる時点に起きた他の事と対比させる場合にのみ用いることができる」として(29)を挙げていることと矛盾するものではなく、過去の進行を表わすには「Vテイタ」のような形式を用いることが義務的である日本語動詞の場合とは異なり、韓国語の“-고 있었다”が話者の判断によりその使用・不使用を選択できる形式であって、進行中であったことをとりたてる表現意図がある場合に用いられることと符合する。

ちなみに、成戸2020:55-56で紹介したように、韓国語には発話時における進行を明示する形式としての性格が“-고 있다”よりもまさっているようにみえる“-는 중이다”が存在し、同形式の過去形“-는 중이었다”と「-テイルトコロダッタ」との間に対応関係が成立する

(30) 마침 온 집안 식구가 마루에서 아침을 먹는 **중이었다**.
／ちょうど家族みんなが、板の間で朝ご飯を食べ**テイルトコロダッタ**。
(同上“-는 중이다”の項)

のようなケースが存在するため、「-テイルトコロダッタ」との対応関係については“-고 있었다”、“-는 중이었다”の使い分けにも留意しながら分析作業をすすめていく必要があろう[12]。

ところで、韓国語では動詞の過去形、“-고 있다”形を用いた表現がともに成立するのに対し、日本語では「Ｖ**タ**」を用いることができず「Ｖ**テイル**」表現のみが成立する以下のようなケースが存在する。

(31)（先生に手紙を書いているところ、姉から「さっきから何をやっているの？」と聞かれて）
편지를｛쓰**고 있어/썼어**｝.
／手紙を｛書い**テイル**/＊書い**タ**｝。
（許宰硯 2005:89、97）

(32)（夕ご飯を食べているところ、友人から電話がかかってきて「今、何やってるの？」と聞かれて）
밥｛먹**고 있어/먹었어**｝.
／ご飯｛食べ**テル**よ/＊食べ**タ**よ｝。
（同上:103）

(33)（太郎を待っているところに偶然同級生と会う。その同級生に「誰を待っているの？」と聞かれて）
타로를｛기다리**고 있어/기다렸어**｝.
／太郎を｛待っ**テイル**/＊待っ**タ**｝。
（李鉉淨 2013:47、許宰硯 2010 からの引用例）

(34)（友達と図書館の入口で会うことにして行ってみると、手に何かを持っている）
손에 무얼｛들**고 있니/들었니**｝？
／手に何を｛持っ**テイル**の/＊持っ**タ**の｝？
（李鉉淨 2013:46、許宰硯 2010 からの引用例）

(35)（バスに乗って約束場所に行く途中友達から「今何に乗っているの？」という電話を受けてから）
버스를｛타**고 있어/탔어**｝.
／バスに｛乗っ**テイル**/＊乗っ**タ**｝。（同上）

いずれも「発話時点まで動作が進行中であったが、まだ続く」という状況下での発話である。過去形を用いたケースについては、許宰硯 2005:105 の「韓国語の『eoss』は『eo issda』だけでなく、『go issda』にも対応する場合があり、特定の文脈において結果状態や進行状態を表わすことができる」にあてはまると考えられるのであるが[13]、このような過去形の用法については、その基本的な働きに鑑みて「発話時以前から発話時までを視野におさめ、出来事を過去のものとして表現している」と解するのが妥当ではなかろうか。でなければ、過去形が「～**シタ**」という意味のほかに「～**シテイタ**」という意味を潜在的に含んでいるという、1.2 での説明との整合性がとれなくなってしまう。

ついでながら、成戸 2021 でとり上げた

(36) 술 **마셨다**.／お酒飲ん**デ(イ)ル**。
（成戸 2021 の(5)、生越 1995:188、199 を一部修正）

(37) 저 사람 괜찮은 옷 **입었**네.
／あの人いい服着**テ(イ)ル**な。
（成戸 2021 の(1)、生越 1995:191 を一部修正）

のような対応例は、いずれも「結果をともなう動作(or 現象)」を表わす動詞を用いたケースであって（厳密には、(36)の「お酒を飲む」と(37)の「服を着る」では、「結果をともなう」の意味が同じとは言い難い）、話し言葉において「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提として用いられる過去形の非典型的用法であり、(31)～(35)におけるような意味での“-고 있다”形との使い分けは問題とならない。

(31)～(35)と同じような成立状況がみられるケースとしては、さらに以下のようなものが挙げられる。

(38)（だれかを尾行している。電話で同僚に彼女の格好を知らせる）
그녀는 기모노를｛입**고 있어/입었어**｝.
／彼女は着物を｛着**テイル**/＊着**タ**｝。
（許宰硯 2005:89、94）

(39) 타로오는 넥타이를｛매**고 있다/맸다**｝.
／太郎はネクタイを｛締め**テイル**/＊締め**タ**｝。（同上:95）

(40) 타로오는 눈을｛감**고 있다/감았다**｝.
／太郎は目を｛閉じ**テイル**/＊閉じ**タ**｝。
（同上）

(38)～(40)の韓国語表現における“-고 있다”形は、動作の結果状態を表わしている。このようなケ

ースに用いられるのは、成戸 2020:61 で紹介したように、身につけ動詞をはじめとする「再帰動詞」が多いようであり、「動作が主体自身におよぶ」という意味上の特徴をもつ、自動詞に近い性格を有する他動詞である。インフォーマントの判断では、いずれも“-고 있다”形を用いる方が better であるものの、過去形の使用も可能とされた。このようなケースにおいて過去形が用いられる場合、(37)と同様の過去形の使用条件が満たされているとは限らないか、そのような使用条件のもとで用いられることが考えにくい。細かくみていけば、例えば(38)は「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提とした表現である可能性も否定できないものの、

(41)（迷子になった子供を見かけなかったかどうかを尋ねている状況で）
그녀는 빨간 코트를 **입었다**.
／彼女は赤いコートを{着**テイル**/？着**タ**}。
（李炫淨 2013:45）

の場合はそのような可能性が全くないのであり、上記の使用条件なしに過去形の使用が許容されるケースが存在することがみてとれよう。(38)において過去形が許容される点についてのインフォーマントの判断は、「本人(그녀)にとっての過去の行為である」というものであったことから((39)～(41)についても同様のことがあてはまる可能性がある)、このようなケースにおける過去形の働きは、いわゆる典型的用法に属するものと位置づけるのが妥当であろう。

一方、過去形の非典型的用法のケースである(37)の韓国語表現を

(37)’저 사람 괜찮은 옷 **입고 있**네.

と比較した場合には「表現の自然さの度合いが同程度である」というインフォーマントの判断がなされたのであるが、このことからは、成戸 2021:41 で紹介した生越 1995;191 の記述((37)の過去形を“-고 있다”形に置き換えると非文となるということ)との整合性をどのようにとるかという問題がうかび上がってくる。生越によれば、「いい服を着た見知らぬ人を発見して」言う場合には“-고 있다”形が使用できないということなのであるが、いま一つの考え方としては、動作の結果状態を前提とした表現における過去形使用の許容度には幅があり、許容度の高いケースから低いケースまでが段階的に存在するということが思いうかぶ。このような考え方は、過去形の典型的用法と非典型的用法との間に明確な境界を設定せず両者を連続したものとしてとらえ、“-고 있다”形使用の許容度についても過去形使用のそれとの相関関係の中でみていくことにつながる。でなければ、(41)や

(42) 사모님은 안경을 **쓰셨어요**.
／奥さんは眼鏡をかけ**テイラッシャイマス**。
（『新装版 韓国語文法辞典』:8）

(43) 그녀는 흰 블라우스에 빨간 스커트를 입었고 흰 운동화를 **신었다**.
／彼女は白いブラウスに赤いスカートを履き、白いスニーカーを履い**テイル**。
（『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-았-”の項）

のような対応例が成立することについての説明がつかないのである。

ここで、興味深いケースを挙げておくこととする。

(44) 그는 얼굴이 길고 안경을 **쓰고 있었어요**.
（彼は顔が長くて、メガネをかけていました。）
（『新装版 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項）

(44)は人の外見について述べた“-고 있었다”形の状態表現であって、表現内容から進行の意味に解される余地はないのであるが、“쓰고 있었어요”を過去形“썼어요”に置き換えると二通りの解釈が可能となるというインフォーマントの判断がなされた。具体的には、「かけ**テイル**」という発話時の状態としての解釈、「かけ**テイタ**」という過去の状態としての解釈のいずれも可能であり、後者の場合には“쓰고 있었어요”を用いる方が一般的、かつ正確な表現となるというのである。このような判断結果からは、過去形が発話時、発話時以前のいずれを前提として用いられるかについて幅のある解釈が許されるケースの存在がみてとれ、このことは

(45) 그 사람 뭐 **입었어요**？
／その人、何を着**テイマシタ**か。

（イム・ジョンデ 2004:65）

のような身につけ動詞の過去形、「Ｖ**テイタ**」の対応例が存在することとも符合する。(45)は疑問詞“뭐”を含んだ過去形の表現と「Ｖ**テイタ**」表現との対応例であって、この点においては非身につけ動詞を用いた(25)～(27)における問いかけの表現と同じタイプに属するのであり、(37)のような過去形の非典型的用法のケースではないとみられる。(45)の前提となる客観的事実は「着た状態」であるものの、“입었어요”の働きについては、動作を過去のものとして表わす典型的用法とみるのが妥当であろう。

成戸 2020:60-61 で述べたように、“-고 있다”表現が表わすのは“아/어 있다”表現が表わすような純然たる「状態」ではなく、動作の具体的ありようとしての「静態」であり、コトガラは動作の側に属せしめられているとみるのが妥当である。同様のことが“-고 있었다”表現についてもあてはまるであろうことは、同形式をとる表現例の中に

(46) 민수 씨는 모자를 쓰**고 있었어요**.
（ミンスさんは帽子をかぶっていました。）
（『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項）

のような進行、状態のいずれを表わすことも可能なケースが存在することからみてとれる[14]。“-고 있었다”表現におけるこのような進行、状態の連続性は、菅野 1986:68-69 が、非身につけ動詞を用いた

(47) 그 때 그는 한국어를 배우**고 있었다**.
（その時かれは韓国語を勉強していた。）
（＝(16)）

を「過去の動作の継続」の例として挙げる一方、心理動詞を用いた

(48) 나는 그들의 관계을 깨닫고 **있었다**.
（わたしはかれらの関係をさとっていた。）
（菅野 1986:69）

を「過去における結果の継続」の例として挙げていることからもうかがわれる。

ついでながら、(48)や

(49) 하나코는 그 사실을 알**고 있었다**.
（花子はその事実を知っていた。）
（許宰硯 2005:100 を一部修正）

(50) 어떻게 하면 좋을까 고민하**고 있었**어요.
그 때 좋은 생각이 났어요.
（どうすればいいか悩んでいました。その時、いい考えが浮かびました。）
（『標準 韓国語文法辞典』“-고 있다”の項）

のような心理動詞を用いたケースは、目に見える動きをともなわない抽象的な行為を表わすため状態表現に近い性格を備えているということができる。この反面、“-고 있었다”形である点を考慮すれば、身につけ動詞を用いた状態表現の場合と同様にコトガラは動作の側に属せしめられていることとなる[15]。“알고 있었다”を用いた(49)とは異なり、“알았다”を用いた

(51) 그 사실을 **알았다**.
（その事実を知っていた。）（石賢敬 2014:61）

の場合には、“알았다”は「知っていた」の意味に解することも可能であるものの、「知った」の意味の方が強いというインフォーマントの判断結果が得られた。このことは、“알았다 ── 知っ**タ**”が両者の典型的用法の対応パターンである一方で、“알았다”がその非典型的用法として過去の進行（心理動詞であるため状態に近い性格をもってはいるものの）を表わすケースも許容されることを意味するのではなかろうか。但し、江田 2013:154-155 が、「知る」、「持つ」などの結果動詞は「-**タ**」形で「現在の変化」または「過去の変化」を、「-**テイタ**」形で「過去の状態」または「過去から現在まで続く状態」を表わすとしていることや、同:272-273 が、①動作動詞は「**タ**」によって過去を表現しやすいのに対し、結果動詞は「**テイタ**」の方が過去を表現しやすい傾向がある、②結果動詞の「**タ**」は過去の変化を表わし、過去そのものを表わしたい場合は「**テイタ**」を使わなければならないとしていること、さらには同:158 が「関係を表す動詞、性状を表す動詞、思考動詞は過去を『ていた』で表現し、比較的よく使われており、これらの語群では『た』ではなく『ていた』が要求される」としていることからは、過去の出来事を表わす場合に「知る」が「**タ**」形よりも「**テイタ**」

形で用いられる傾向にあることが読みとれそうであり、このことが“알았다 ── 知っ**テイタ**”の対応が許容される(or“알았다”に対して「知っ**タ**」よりも「知っ**テイタ**」の方が対応しやすい)要因となっている可能性がある。このため、“알았다 ── 知っ**タ**”の対応関係について考える際には、“알다”、“知**ル**”という動詞の性格を比較検討することも不可欠であるように思われる。

2.2 韓国語動詞の過去形、“-아/어 있었다”形と日本語の「Vタ」、「Vテイタ」

日本語「Vテイタ」に対応する韓国語の表現形式としては、動詞の過去形、“-고 있었다”形のほか、自動詞と組み合わされて過去の状態を表わす“-아/어 있었다”形があり、以下のような対応例がみられる。

(52) 그들은 모두 운동장에 모**여 있었다**.
／彼らは皆グラウンドに集まっ**テイタ**。
(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-았”の項)

(53) 내가 갔을 때는 그 사람은 일어**나 있었다**.
／私が行った時は彼女は起き**テイタ**。
(梅田・村崎 1982:52)

(54) 집에 돌아가보니까 연탄불이 꺼져 **있었다**.
／家に帰ってみると炭の火が消え**テイタ**。
(同上)

「Vテイタ」に対応する韓国語動詞の過去形、“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形の使い分けは、成戸 2020 でとり上げた「Vテイル」に対応する韓国語動詞の現在形(および格式体“動詞の語幹＋ㅂ니다(습니다)”、非格式体＝“해요”体)、“-고 있다”形、“-아/어 있다”形の使い分けと基本的な部分で共通していると考えられる。具体的には、継続可能な動作(or 現象)を表わす動詞の現在形は進行の意味を内包しており進行、非進行のいずれを表わすことも可能であるのに対し、“-고 있다”は他動詞と組み合わされて進行を(身につけ動詞をはじめとする再帰動詞の場合は状態も)、“-아/어 있다”は自動詞と組み合わされて「動作(or 現象)が終了した後に残った状態」を表わすという役割分担が、過去形、“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形についてもあてはまるということなのであるが[16]、二組の使い分けが完全にパラレルな関係にあるのか否かについては、慎重な検討が必要である。

“-아/어 있다”、“-아/어 있었다”はいずれも自動詞と組み合わされて「動作(or 現象)が終了した後に残った状態」を表わす形式であって、前者は

(55) 옆 자리가 비**어 있습니까**?
／隣の席は空い**テイマス**か。(浅井 2009:68)

のように発話時の状態を、後者は(52)～(54)や

(56) 자리가 비**어 있었**다. ／席が空い**テイタ**。
(『엣센스 韓日辭典』“있다”の項)

のように過去の状態を表わし、進行を表わす“-고 있다”形、“-고 있었다”形の場合と同じくそれぞれ「Vテイル」、「Vテイタ」との間に対応関係が成立する。この反面、過去形との使い分けに着目してみると“-고 있었다”形の場合とは異なった現象が観察される[17]。2.1 で述べたように、過去形を用いた表現の中には、話し言葉における過去形の非典型的用法として「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提とするとともに日本語「Vテイル」との間に対応関係が成立する(36)～(37)のようなケースがみられるのであるが、これらは他動詞を用いたケースであり、自動詞を用いた

(57) 사람이 **죽었다**！／人が死ん**デ(イ)ル**！
(成戸 2021 の(2)、生越 1995:191 を一部修正)

(58) 장갑 **떨어졌다**. ／手袋落ち**テル**。
(成戸 2021 の(23)、生越 1997:144)

も存在する。同様のケースとしては、李炫淨 2013:42 が「発話時点から見て、完了されて現在まで持続されたり現在にも影響を及ぼす状況を表す語尾」として働く“-었-”の用例として挙げている

(59) 코스모스가 활짝 **피었**구나.
／コスモスがぱあっと咲い**テイル**ね。
(李炫淨 2013:42)

があり、このことは、(59)の韓国語表現についてイ

ンフォーマントが「初めて見た」情景が想定されると判断したことや、話者の主観（感嘆）を表わす“-구나(-ね／な)”が含まれていることによっても理解できよう。成戸 2021:37 で紹介した生越 1995:197 の記述にみられるように、過去形が発話時の結果状態を前提として用いられる場合には、話者の感情をともなった主観性の強い表現となるのである。これに対し、“-아/어 있었다”形を用いた

(60) 산에는 진달래가 곱게 피**어 있었어요**.
／山にはツツジがきれいに咲い**テイマシタ**。
（『新装版 韓国語文法辞典』“-어/아/여 있다”の項）

は過去の状態を表わす表現であるため「V**テイタ**」との対応関係が成立するのであり、“피어 있었어요”を“피었어요”に置き換えた

(60)’산에는 진달래가 곱게 **피었어요**.

は、話者が「発話時に実際に目にした。初めて目にした」情景について述べる表現として用いられるほか、人から聞かれて情景がどのようであるかを述べる表現としても用いられるというインフォーマントの判断がなされた。前者の場合は過去形の非典型的用法であり、後者の場合は

(61)（お花見に行って友達に電話で桜の開花の状況を話す場面）
벚꽃이 많이 **피었다**.
／桜がたくさん咲い**テイル**。
（李炫淨 2013:46）

と同じく発話時の状態をありのままに伝えているのであって、典型的用法であるとみるのが妥当であろう[18]。これらのことから、過去形、“-아/어 있었다”形の間には過去の状態をめぐる使い分けの問題は生じないことがみてとれそうであり、この点では、成戸 2021:37-43 でとり上げたような、発話時の状態をめぐる使い分けが問題となる過去形、“-아/어 있다”形の場合（但し、同:43-45 でとり上げたようなアスペクト形式と組み合わせ不可能な動詞の場合には使い分けの問題は発生しない）とは事情が異なる。このように、過去形、“-아/어 있었다”形の関係は、過去形、“-고 있었다”形のそれとは様相が大きく異なっているのである。同:37 で紹介したように、発話時に話者が初めて目にした状態を前提とする表現に用いられる韓国語動詞の過去形は、変化の結果状態よりも変化の成立自体が話者にとって重要な情報とされている点で、変化の結果状態の存在が重要な情報である場合に用いられる“-아/어 있다”形とは異なるとされる。このことは換言すれば、前者は出来事を動作（or 現象）として、後者は状態として表わす形式であるということになるのであるが、前者の場合、同:34 で紹介した生越 1995:191 の記述にみられるように、話者は状態が出現する前の変化あるいは動作そのものを目にしたわけではない。このような性格を有する過去形を“-아/어 있었다”形と比較した場合、具体的にはどのような相違がみられるのであろうか。例えば、

(62) 쓰레기가 많이 남**아 있었습니다**.
（ゴミがたくさん残っていました。）
（成戸 2020 の(14)、『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』を一部修正）

の場合には「発話時以前のある時点において残っていた」という過去の状態を表わしているのに対し、過去形を用いた

(62)’쓰레기가 많이 **남았습니다**.
（ゴミがたくさん残っています／残りました。）

の前提となる客観的事実としては「現在見たら残っている」という発話時における話者の目の前の状態が想定されるというインフォーマントの判断結果が得られた。すなわち、“-아/어 있었다”形は「発話時以前の状態」を表わすのに対し、過去形は「発話時の状態」を前提として出来事を「発話時以前に終了した動作（or 現象）」として表わすのである。ちなみに、(62)’のような状況であれば、日本語では「残りまし**タ**」、「残っ**テイマス**」のいずれを用いることも可能であるものの、同:36 で紹介したように、日本語「V**タ**」を用いる場合には変化前の状態に関する情報が韓国語動詞過去形よりも強く要求される。

(62)、(62)’の場合とは異なり、

(52) 그들은 모두 운동장에 모**여 있었다**.

(52)’ 그들은 모두 운동장에 **모였다.**

を比較すると、(52)に対しては「行ってみたら集まっていた」という状況が想定されるのに対し、(52)’に対しては「目的があって集まった」という状況が想定される(「集まっていた」という状態ではない)というインフォーマントの判断がなされ、両者の間には「状態」、「動作」という明確な相違がみられることとなった。また、

(54) 집에 돌아가보니까 연탄불이 꺼져 **있었다.**
(54)’ ？집에 돌아가보니까 연탄불이 **꺼졌다.**

の場合には、過去形を用いた(54)’は「(炭の火が)消えた」という現象を表わすため、表現全体の内容にそぐわないとされた。これらに対し、

(53) 내가 갔을 때는 그 사람은 일어**나 있었다.**
(53)’ 내가 갔을 때는 그 사람은 **일어났다.**

を比較した場合には、過去形を用いた(53)’に対して「直前に起きた」という状況が想定されると判断されたのであるが、客観的事実としては「発話時に起きている」に極めて近いととらえることもできそうである。このことは、(53)’の“일어났다”は過去の動作を表わしつつも、発話時の状態を暗示しているのではないかという考え方につながっていく。同様の使い分けがみられる例としては、さらに以下のようなものが挙げられる。

(63) 개가 바닥에 누**워 있었습니다.**
(犬が床に横になっていました。)
(成戸 2020 の(12)、『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』を一部修正)
(63)’ 개가 바닥에 **누웠습니다.**
(犬が床に横になりました。)

(64) 자전거가 쓰러**져 있었다.**
(自転車が倒れていた。)
(成戸 2020 の(15)、『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』を一部修正)
(64)’ 자전거가 **쓰러졌다.** (自転車が倒れた。)

(65) 철수는 집에 **가 있었다.**
(チョルスは家に帰っていた。)
(成戸 2020 の(13)、『標準 韓国語文法辞典』“-았-”の項を一部修正)
(65)’ 철수는 집에 **갔다.**
(チョルスは家に帰った。)

これらはいずれも、“-아/어 있었다”形が過去における結果状態を、過去形が発話時の状態が出現する直前の動作(or 現象)を表わしている。具体的には、(63)’、(64)’はそれぞれ話者の目の前で「横になった」、「倒れた」、(65)’は「ちょっと前に帰った」というニュアンスが感じられるというインフォーマントの判断がなされた[19]。

2.3 テンス、アスペクトに関わる日韓諸形式

2.1、2.2で述べたように、韓国語動詞過去形の非典型的用法(発話時における話者の目の前の状態を表わす)が表わす出来事は、日本語であれば「V**タ**」ではなく「V**テイル**」によって表わされるため、これに連動して韓国語動詞の過去形、“-아/어 있었다”形の使い分けが日本語「V**タ**」、「V**テイタ**」のそれと異なるであろうことは想像に難くない。但し、通時的な視点からながめてみると、両言語の間には共通点(or 相似点)がうかび上がってくる。福嶋 2011:124には、現代日本語では「**テイル**」形がになっている＜現在(同時)＞という領域を中世末期の日本語では動詞基本形、補助動詞化の度合いの低い「**テイル**」形、「**タ**」形がになっていた旨の記述が、山田 2009:65には、「**タ**」は完了の「**タリ**」に由来し、「**タリ**」は完了の助動詞「**ツ**」に由来する「**テ**」に「**アリ**」がついたものであり、「咲き**タル**桜(咲いている桜)」は「咲いた、そしてその結果がある」を意味する旨の記述がみられる。これらの記述からは、当時の日本語動詞基本形が発話時における動作(or 現象)の進行を表わす働きを備えていたこと、「V**タ**」が発話時の状態を前提として用いられていたことがみてとれそうであり、現代韓国語動詞における進行を表わす現在形の働きや、発話時の状態を前提として用いられる過去形の働きに通じるものがある[20]。これらのことを参考にして、現代韓国語における動詞の現在形、“-고 있다”形、“-아/어 있다”形の使い分け、過去形、“-고 있었다”形、“-아/어

있었다”形の使い分けをみていくことによって、進行、状態に関わる日韓諸形式が現在のような働きを備えるにいたった過程がうきぼりとなるとともに、現代語における各形式の働きや、両言語間における対応関係成立の要因についてもより厳密な記述が可能となり、ひいては現代韓国語における進行、状態を表わすアスペクト形式の発展段階を現代日本語におけるそれと比較することが可能となろう。

前述したように、韓国語動詞が過去形で進行を表わすのは、現在形の場合と同じく進行の意味を内包していることによる。但し、このような性格を有するのは継続可能な動作(or 現象)を表わすもの、すなわち継続動詞(or 動作動詞)に限られる。一方、過去形が発話時の結果状態を前提として用いられるのは、結果をともなう動作(or 現象)を表わすもの、すなわち瞬間動詞(or 変化動詞)の場合に限られる[21]。ここで注意しなければならないのは、前述したように、過去形で出来事を状態そのものとして表わすのではなく、過去の動作(or 現象)として表わすという点である。具体的には、継続動詞(or 動作動詞)の過去形は進行を表わす働きを有するのに対し、瞬間動詞(or 変化動詞)の過去形は動作(or 現象)を過去のものとして表わすことを通して発話時における状態の存在を含意(or 暗示)する働きを有するということである。成戸 2021:38 においては、「韓国語動詞の過去形が状態を表わす形式としての性格を帯びることがある」、「継続可能な動作(or 現象)を表わす動詞の現在形が進行の意味を潜在的に含んでいるのと同様に、瞬間動詞(or 変化動詞)の過去形が状態の意味を潜在的に含んでいるとみることはできないか」と述べたのであるが、「潜在的に含んでいる」は意味的に幅のある言い回しであって、両者は全く同じ意味で使われているわけではない。また、上記のような過去形の働きの記述にあたっては、安平鎬 2001:223 に、했다形(過去形)が「現在の状態」を前提として用いられる場合についての先行研究の解釈の一つである「あくまでも『-ess-』は、過去を表すテンスマーカーであり、現在の状態を表す場合も『-ess-』のテンス的な意味機能から派生している」には問題点がある旨の記述がみられることも参考にして矛盾のないように留意する必要があろう[22]。成戸 2020:52 で紹介したように、現在時制で状態を表わす韓国語動詞としてはいわゆる「状態動詞」と「이다動詞」があるとされ[23]、このことからみれば、これら以外の動詞が現在形、過去形のいずれにせよ状態そのものを表わすことを典型的用法としているとは考えられない。であれば、過去形と“-고 있었다”形との間に「過去の進行」をめぐる使い分けの問題が存在するのとは異なって、過去形と“-아/어 있었다”形との間に「過去の状態」をめぐる使い分けの問題は存在しないと考えざるを得ず、状態表現をめぐる日本語「V**タ**」、「V**テイタ**」との対応関係について検討する余地もないということになる。

これまでにとり上げた韓国語諸形式には、テンスに関わるもの、アスペクトに関わるものが含まれており、両者を比較しながら進行、状態の問題について考えてきた。周知のように、韓国語動詞の現在形、過去形はテンス形式とされるのに対し、“-고 있다”、“-아/어 있다”はアスペクト形式とされる[24]。一方、“-고 있었다”、“-아/어 있었다”は、アスペクト形式に過去を表わす補助語幹“-었-”が加わったものである。“-고 있다”、“-아/어 있다”と“-고 있었다”、“-아/어 있었다”との使い分けは、日本語における「V**テイル**」と「V**テイタ**」の使い分けに相当するように見受けられ、これら以外に対応する形式を見いだせない。但し、成戸 2021:35 で紹介したように、「V**タ**」は「現在」、「過去」、「未来」という現実の時間区分とは異なる観念によって区別された時間区分にもとづいてその使用・不使用が決定される形式であって、時制を反映する韓国語動詞の過去形(テンス形式)とは異なるレベルのものであるため[25]、日本語の「V**ル**」、「V**タ**」をそれぞれ「現在」、「過去」を表わすテンス形式であると単純に規定して論をすすめることは、必ずしも妥当ではない。同様のことは「V**テイル**」、「V**テイタ**」についてもあてはまり、江田 2013:129-130、275、281 は「V**テイル**」、「V**テイタ**」が現在、過去という単純な使い分けにとどまらない点について言及している。従って、“-고 있다”と“-고 있었다”の使い分け、“-아/어 있다”と“-아/어 있었다”の使い分けをめぐる対照作業を行なう際には、「V**テイル**」と「V**テイタ**」の使い分けにみられるこのような側面にも注意をはらいつつ進めていく必要がある。

3 韓国語動詞の過去形、過去完了形と日本語の「Vタ」、「Vテイタ」

3.1 韓国語動詞の過去形、過去完了形

過去の出来事を表わす韓国語の表現形式としては、これまでにとり上げた動詞の過去形、“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形のほかに過去完了形が存在し、日本語「Vテイタ」との間に対応関係が成立するケースがみられる。このため、過去の進行、状態に関わる日韓諸形式の使い分け、対応関係の全貌を明らかにするには、過去完了形をも含めた分析作業が必要となる。過去完了形を用いた韓国語表現と「Vテイタ」を用いた日本語表現との対応例としては、例えば以下のようなものが挙げられる。

(66) 예전에는 나도 갈비탕을 자주 **먹었었**지.
／以前は私も、カルビタンをよく食べ**テイタ**の。
（『標準 韓国語文法辞典』“-았었-”の項）

(67) 우리는 말타기를 하고 **놀았었다**.
／私たちはお馬さんごっこをして遊ん**デイタ**。
（『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-았었-”の項）

(68) 나는 그녀를 진심으로 **사랑했었어**.
／私は彼女を、心から愛し**テイタ**んだ。
（『標準 韓国語文法辞典』“-았었-”の項）

(69) 그 때 방안은 연기로 가득 **찼었다**.
／そのとき部屋の中は煙で充満し**テイタ**。
（『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-았었-”の項）

(70) 손이 빨갛게 **얼었었다**.
／手が赤くかじかん**デイタ**。
（同上“-었었-”の項）

(66)は「長期にわたり断続的に繰り返されていた習慣的行為」を表わしている。(67)は、原典では「回想」を表わすと示されているものの、インフォーマントは「習慣を表わしている」とした。(68)は心理動詞を用いたケースであり、例えば「愛していたが結婚できなかった」のような状況が想定されるとともに、「発話時にはもう愛していない可能性もある」とされた。(69)、(70)は無情物について述べたケースであり、前者は現象、状態のいずれにも解される出来事を、後者は状態を表わしている。これらは、過去において続いていた動作(or 現象)や状態、すなわち継続的な出来事を表わしている[26]。

イム・ジョンデ 2004:227 は、過去完了形が表わすのは、「過去のある時期に一時的に続いていたという意味」であるとして

(71) 작년에 거기에 **갔었다**.
（去年そこに行っていた。）
（イム・ジョンデ 2004:227）

(72) 모두가 **참가했었다**.
（みんなが参加していた。）（同上）

を挙げ、梅田・村崎 1982:47 は、

(73) きのうは一日中雨が降っ**テイタ**。
（梅田・村崎 1982:47）

のように「ずっと雨が降っていた」という継続の意味を表わす日本語表現に相当する自然な朝鮮語表現は

(73)’ 어제 하루 종일 비가 **왔었어요**.（同上）

であり、

(73)” 어제 하루 종일 비가 **왔어요**.（同上）

は単に過去の事実(きのう一日中雨が降った)を述べた表現であるというインフォーマントの判断結果を紹介した上で、“었었”が過去における動作(本稿でいう動作(or 現象))の継続を意味しうるのは「過去のある時点で動作が起こりそれが終結したという区切りをつける」という意義素のためではないかとしている。但し、過去形を用いた(4)が「降りまし**タ**」、「降っ**テイマシタ**」のいずれに解することも可能であることを考えると、梅田・村崎がいう「継続」を表わす働きは、過去形と直接に比較した場合に際立つ側面であって、過去完了形の働きの一部であるとみるのが正確ではなかろうか。過去形と過去完了形の主たる相違はむしろ、発話時以前と発話時の間にお

ける連続性の有無にあると考えられる[27]。このことは、成戸 2021:39 において、「発話時において話者の目の前に状態が存在する」ことを前提として用いられる“-아/어 있다”表現、過去形を用いた表現について、前者の場合には「発話時以前と発話時が不連続である」のに対し、後者の場合には「連続性を有する」としたことや、安平鎬 2001:231 が存在動詞“있다”の過去完了形“있었다”の働きについて「現在から切り離された過去の状況を表す」としていること、さらには浅井 2009:130-131 が

(74) 그 때 맥주를 **마셨습니다.**
（その時ビールを飲み**マシタ**。）
（浅井 2009:130）

(74)’ 그 때 맥주를 **마셨었어요.**
（その時ビールを飲ん**デイマシタ**。）
（同上:131）

について、過去形を用いた(74)は「『その時飲んだ』事実を述べており、現在への影響があるかないかは問題としない」のに対し、過去完了形を用いた(74)’は「ある時間について尋ねられて、『その時は飲んでいた』と答えるときに使える」としていることなどとも符合する[28]。上記のような過去完了形の特徴は、同形式が「大過去形」ともよばれていることに象徴されるように思われる。NHK2004 年 4 月:62 は大過去形について、「過去の動作の結果が残っていないこと、つまり『今はそうではない』ことをはっきりあらわすために用いられます」として

(75)　갔습니다（行きました）
(75)’ 갔었습니다（行っていました）

のような移動動作を表わす例を挙げている。(75)、(75)’の相違が具体的な形であらわれているのが

(76) 그는 지난 달에 제주도에 **갔습니다.**
（彼は先月済州道に行きました。）
（『新装版 韓国語文法辞典』:11）

(76)’ 그는 지난 달에 제주도에 **갔었습니다.**
（彼は先月済州道に行ってました。）（同上）

であり、『新装版 韓国語文法辞典』:11 は、(76)は「済州道に行っている状態が続いているか、あるいはそれ以降の状況が分からないか、あるいは別のところにいる」という状況で、(76)’は「済州道に行って帰ってきた」という状況で用いられるとしている。同様に、浅井 2009:130-131 は“오다(来る)”を用いた

(77) 아까 친구가 **왔어요.**
（さっき友だちが来ました。）
（浅井 2009:130）

(77)’ 아까 친구가 **왔었어요.**
（さっき友だちが来ていました。）
（同上:131）

について、(77)は「『さっき来た』という事実を述べているだけで、今はその場所にいるかいないかわからない」、(77)’は「『さっき来ていた』ということは、今はその場所にはいない」としている。このように、過去完了形は「発話時との間に連続性がない」ことを前提として用いられるため、

(78) A：어제는 어디 **갔었어요？**
（きのうはどこに行ってたんですか。）
B：가족들 데리고 강원도로 **갔었어요.**
（家族を連れて江原道に行っていました。）（NHK2004 年 4 月:62、69）

のように「発話時には別の場所にいることが確実である」場合や、

(79) 아침마다 철수도 공원에 운동하러 자주 **갔었다.**
（毎朝、チョルスも公園に運動しに、よく行っていた。）
（『標準 韓国語文法辞典』“-았었-”の項）

のように「発話時にはもう行かなくなっていることを前提とする」場合に用いるのがふさわしいようである((79)が表わしているのは(66)と同じく「長期にわたり断続的に繰り返されていた習慣的行為」である)。過去形、過去完了形の間にみられるこのような相違は、移動動作に準じる出来事を表わす

(80) 영수 씨, 거래처에서 전화**왔어요.**
（ヨンスさん、取引先から電話が来てます(＝かかって来てます)よ。）（同上）

※カッコ内日本語の一部は筆者

(80)’ 영수 씨, 거래처에서 전화**왔었어요**.
（ヨンスさん、取引先から電話がかかってきていましたよ。）（同上）

のようなケースについてもあてはまり、『標準 韓国語文法辞典（“-았었-”の項）』は、過去形を用いた(80)は「取引先から電話が来たが、まだ切らずに待っているので、その電話に出るようにという意味」であるのに対し、過去完了形を用いた(80)’は「さっき取引先から電話が来たが、ヨンスさんが席にいないので切り、今は単に電話がかかってきたという事実だけを知らせる場合」に用いられるとしている。非移動動作を表わすケースも同様であり、『新装版 韓国語文法辞典』:11 には

(81) 나도 주택 복권을 **샀다**.
（私も住宅宝くじを買った。）
（『新装版 韓国語文法辞典』:11）

(81)’ 나도 주택 복권을 **샀었다**.
（私も住宅宝くじを（よく）買った。）（同上）

(82) 무엇을 전공**했습니까**？
（何を専攻しましたか。）（同上）

(82)’ 무엇을 전공했**었**습니까？
（何を専攻していましたか。）（同上）

のうち、過去完了形を用いた(81)’、(82)’はそれぞれ「買ったが今は持っていない状態、または過去に習慣的に買っていたが、今は買わない状態」、「今の専攻ではなく、過去の専攻は何ですか」を述べる表現であるのに対し、過去形を用いた(81)、(82)はそれぞれ「買ってある状態」、「専攻したものは何ですか」を述べる表現であるとされている。「発話時にはそうではなくなっている」ことを前提として用いられる過去完了形の特徴は、“예전에는（以前は）”を含んだ(66)のようなケースや、そのことが明白となる後件が続く

(83) 옷이 **젖었었**는데 다 말랐네요.
（服が濡れていたけど、完全に乾いたね。）
（同上）

のようなケース、さらには発話時以前と発話時を対比させた

(84) 부산에 **살았었어요**, 그렇지만 지금은 서울에 **살아요**.
（釜山に住んでいました。でも今はソウルに住んでいます。）
（『韓国語文法 語尾・助詞辞典』“-았었-”の項）

のようなケースにおいて一層鮮明にあらわれる。また、過去形を用いた

(61) 벚꽃이 많이 **피었다**.

について、「以前に見た時はあまり咲いていなかったが、今見たらたくさん咲いている」という状況が想定されるというインフォーマントの判断がなされたことは、(83)において過去完了形“젖었었(다)”と共起している“말랐(다)”に通じるものがある。

過去完了形（大過去形）についての「（今はそうではないことを）はっきりあらわす」という NHK 前掲書:62 の説明は、同:63 では「あくまでもその事実をはっきりさせたい場合に用います」となっており、そのようなとりたての表現意図がなければ用いられないことがうかがわれる。但し、過去形、過去完了形のいずれが選択されるかという点では微妙なケースも存在するようである。このことは『新装版 韓国語文法辞典』:11-12 が「‘-었-’と‘-었었-’は動詞の意味によっては同じように使われる場合もある。つまり、‘-었었-’を使わなければいけないのに‘-었-’を使うことが時々ある」として

(85) 형은 전에 이 학교에 **다녔다**.
（兄は前この学校に通っていた。）
（『新装版 韓国語文法辞典』:11）

(86) 어렸을 때는 서울에 **살았습니다**.
그렇지만 결혼하고는 시골에서 **살아요**.
（私は幼いときはソウルに住んでいました。でも、結婚してからは田舎で住んでいます。）（同上:12）

を挙げ[29]、(85)については「今は通っていなくても“다녔었다”はあまり使わない」、(86)については「状態が変わったので“살았었습니다”と言うべきだが“살았습니다”も使う」としていることや、李忠均 2018:194 に

(87) 2 년전 도쿄에 **살았(었)다.**
(2 年前東京に住んでいた。)
(李忠均 2018:194)

のような例が挙げられていることにもあらわれており、過去形、過去完了形のいずれを用いるかは最終的には話者の判断にゆだねられる部分があるのかも知れない。但し、(85)の“다녔다”については、過去形が進行を表わしているケースであるという見方もできるのではなかろうか。これは、「現在の習慣」を表わす日本語「…している」の例として『小学館 日韓辞典(「いる【居る】」の項)』に挙げられている

(88) 아버지는 매일 전철로 회사에
다니십니다.
(父は毎日電車で会社に通っています。)
(成戸 2020 の(55)、『小学館 日韓辞典』「いる【居る】」の項)

と見比べた場合にうかんでくる考え方であり、過去完了形が前述したように「発話時にはそうでない」ことをとりたてる表現意図をもって使用される点に鑑みれば、一概に否定することはできないものである。同様のことは、(86)の“살았습니다”についてもあてはまり、“살았었어요”を用いた(84)の場合と同じく発話時を表わす“살아요”と対比されていることから、過去の進行を表わしているとみることには無理がないように思われる。このような考え方は、

(89) 옛날에 어떤 사람이 **살았습니다.**
(昔、ある人が住んでいました。)
(『標準 韓国語文法辞典』“-이”の項)

について「“살았습니다”よりも“살았었습니다”を用いる方が正確な表現となる」、「“살았습니다”は昔ではなく直前の出来事を表わす場合に用いることも可能である」というインフォーマントの判断があったこととも矛盾せず、過去形、過去完了形がその主たる働きを異にする一方で、両者の働きが重なり合う部分も存在するようである。このように、過去形の働き、過去完了形の働きは必ずしも排他的な関係にあるわけではなく、いずれを用いるかによって表現の前提となる客観的事実が異なるとは限らないのである。

3.2 韓国語動詞の過去完了形と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」

韓国語動詞の過去完了形に対して日本語「Ｖ**テイタ**」が対応するのは、両者の間に共通点(or 相似点)が存在するためであり、このことは江田 2013:137 の「『ていた』には現在と状況が異なるという意味が含まれる場合がある」、同:159-160 の「『ていた』が表す過去の状態は、文脈によって、過去の状態、現在と切り離された過去の状態、『発見』つまりある状態があることに、あるとき気づいたという意味が見られる」、「現在と切り離された過去の状態というのは、現在とは状況が異なっているという意味を示しているものである」、同:272 の「『ていた』で過去を表す場合は、文脈によって、過去、現在と切り離された過去、『発見』といった意味が現れる」などの記述からもみてとれる。「Ｖ**テイタ**」の働きである「発話時と切り離された過去の状態を表わす」、「現在と状況が異なるという意味が含まれる」は韓国語動詞過去完了形のそれと共通しているようにもみえるのであるが、これは「文脈によって」という条件の下でみられる限定的なものであり、許宰硯 2005:92-93 が

(90) 今日、田中君を見た？ ── うん、さっき、図書館で勉強し**テタ**よ。(許宰硯 2005:92)

について「田中が今は図書館で勉強していない」、「田中が今も図書館で勉強している」の二通りの読みが可能であるとしているように、発話時との連続性の有無にかかわらず用いられるケースも存在する。

一方、「Ｖ**タ**」の場合は『日本語文法事典(「タ ³」の項)』が「『タ』は、終始の位置では、発話時以前であること、つまりは過去であることを表す。『昨日来た』のように現在と切り離された過去(正確には過去の完成的運動)を表す場合もあれば、『もう来た』のように現在とむすびついた過去(正確には現在に結果や効力が残っている過去の完成的運動)を表す場合もある」としているように、発話時との連続性の有無が問題とはされない形式である[30]。

ところで、韓国語動詞過去完了形と日本語「Ｖ**テイタ**」の対応関係について考えるのであれば、梅田・村崎 1982:45、46 が、韓国語動詞に付加される“-었-”、日本語動詞に付加される「-**タ**」の働きについて「現在までの過去のある時点で動作が起こったことを表す。動作の起点に注目」とする一方、“-었었-”、「テ

イタ／ヨク～タ」の働きについて「現在までの過去のある時点に動作が終結したことを表す。動作の終点に注目」としていることも参考となろう。過去完了形と「V**テイタ**」の共通点(or 相似点)に言及したこれらの記述内容は、過去形の場合とは異なって、過去完了形が発話時における出来事の存在を前提としないということと表裏一体をなしている。とりわけ「動作の終点に注目」という部分は、「継続」を表わすことが過去完了形の主たる働きではないことを示唆しているようにも解され、非アスペクト形式(テンス形式)であることとも矛盾しないのであるが、3.1 で紹介した同:47 の「"-었었-" が過去における動作の継続を意味しうるのは『過去のある時点で動作が起こりそれが終結したという区切りをつける』という意義素のためではないか」という見解との整合性が損なわれないように留意する必要がある。そのためには、1.2 で紹介した過去形の「完了持続性」という考え方が過去完了形にもあてはまるか否かを探りつつ考察をすすめていくのが有効かも知れない。ついでながら、過去完了形が非アスペクト形式であることは、過去を表わす "-었-" の重なった同形式が「大過去形」ともよばれていることや、

(91) 그해 겨울은 참 **따스했었지**.
(あの年の冬はとても暖かかった。)
(石賢敬 2014:61)

(92) 어렸을 때는 키가 **컸었**는데 지금 보니 별로 안 크네.
(子供のころは背が高かったのに、今見たらあまり高くないね。)
(『韓国語文法 語尾・助詞辞典』"-았었-" の項)

にみられるような形容詞の過去完了形が存在することからも明白である[31]。

3.3 韓国語動詞の過去完了形と "-고 있었다" 形、"-아/어 있었다" 形

韓国語のテンス形式である「現在形——過去形」、アスペクト形式である "-고 있다形 —— -고 있었다形"、"-아/어 있다形 —— -아/어 있었다形" の用法については、日本語の「V**ル**——V**タ**」、「V**テイル**——V**テイタ**」との対応例を用いて説明されることが多いのであるが、「過去完了形——V**テイタ**」の対応例を抜きにしては、韓国語のテンス・アスペクト体系に対する学習者の理解も不十分なままで終わってしまう。過去完了形は上記の韓国語諸形式と無関係に存在するものではなく、テンス・アスペクト体系における位置づけ、他の形式との役割分担を明確にしておく必要がある。

2.1 で述べたように、"-고 있었다" 形は動作(or 現象)が過去に進行中であったことをとりたてて述べる場合に用いられる形式である。一方、3.1 で述べたように、過去完了形は、発話時以前と発話時の間に連続性がないことをとりたてて述べる働きを主とする。これらのことから、過去完了形は「継続」というアスペクト的側面よりは「発話時以前 —— 発話時」という非アスペクト(テンス)的側面に比重を置いて出来事を表わす形式であり、厳密に言えば「アスペクト的性格を有するテンス形式」ということになろう[32]。これらのことから、過去完了形が「過去完了形 —— 過去形 —— 現在形」のようなテンスの系列を構成していることは明白なのであるが、「発話時との不連続」を前提として用いられる同形式の特徴に着目すれば、現在形、過去形と同一平面上に並べてあつかうことの妥当性については慎重な判断が求められそうである。

過去完了形、"-고 있었다" 形の使い分けを考えるに先立っては、"-고 있다" 形、"-고 있었다" 形の相違について確認しておく必要がある。というのも、後二者の間には使用頻度に差異がみられ、このことが過去完了形、"-고 있었다" 形の使い分けに影響していると考えられるからである。3.1 で述べたように、梅田・村崎 1982:47 は、「降っ**テイタ**」を用いた(73)に相当する自然な朝鮮語表現には(73)' のように "왔었어요" が用いられ、"왔어요" を用いた(73)" は単に過去の事実を述べた表現となるというインフォーマントの判断結果を紹介する一方で、"오고 있다(降っている)" については「現在なら動作の継続を強調する時に用いられる」が、"오고 있었다(降っていた)" については「あまり言わない」、「日本語では『テイル』『テイタ』が頻繁に用いられるのに対し、朝鮮語では特に過去になるとあまり使われないのが目につく」としている。これらの記述は、韓国語動詞の「現在形 —— "-고 있다" 形」、「過去形 —— "-고 있었다" 形」の使い分けがパラレルな関係にないことを示唆しているようであり、"-고 있었다" の使用頻度が "-고 있다" に比べて低いのはいかなる要因によるかということが問題となると

ともに、「継続」を表わす過去完了形の存在が大きく影響している可能性がうかび上がってくるのである。このことは、過去完了形を用いた

(93) 새 우는 소리가 **들렸었다.**
(鳥の鳴く声が聞こえていた。)
(成戸 2021 の(4)、石賢敬 2014:66 を一部修正)

は自然な表現として成立するのに対し、

(93)' 새 우는 소리가 **들려고 있었다.**

はあまり使われないというインフォーマントの判断結果とも無関係ではなさそうである[33]。「過去に進行中であった動作(or 現象)が発話時に存在しなくなっている」はごく普通にありえる状況であり、そのような状況にあることをとりたてる働きをもつ過去完了形が用いられるのは何ら不自然なことではない。これに対し、2.1 で述べたように、"-고 있었다"は「過去における進行をとりたてて述べる」という表現意図のもとで用いられる形式であって過去完了形に比べると使用範囲が限られており、このことが"-고 있었다"形の使用頻度の相対的な低さにつながっていると推察される。

このようにみてくると、"-고 있다" 形、"-고 있었다" 形の間におけるような使用頻度の差異が、同じくアスペクト形式である "-아/어 있다" 形、"-아/어 있었다" 形の間にもみられるかどうかが気になってくるのであるが、この点については慎重な検討が求められそうである。2.1 で述べたように、結果をともなう動作(or 現象)を表わす動詞の過去形は、話し言葉において「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提として用いられ、自動詞の過去形の場合には成戸 2021:37-43 でとり上げたような "-아/어 있다" 形との使い分けが問題となる。この点において、過去形、"-고 있다" 形の間に使い分けの問題が生じないのとは事情が異なるのであり、これらのことは "-아/어 있다" 形、"-아/어 있었다" 形の使用頻度や、さらには "-아/어 있었다" 形と過去完了形の使い分けにも影響していると考えるのが自然であろう。

3.1 で述べたように、過去完了形は「発話時との間に連続性がない」ことを前提として用いられる。このことは、

(52) 그들은 모두 운동장에 모**여 있었다.**

はこのままでも自然な表現として成立するのに対し、

(52)" 그들은 모두 운동장에 **모였었다.**

には "그때(その時)" のような成分を加えるべきであるというインフォーマントの判断結果とも符合する。また、

(60) 산에는 진달래가 곱게 피**어 있었어요.**
(60)" 산에는 진달래가 곱게 **피었었어요.**

の場合に自然な表現として成立するのは(60)の方であって、(60)" には "그때"、"어제(昨日)" などの成分が必要とされたのも、(52)、(52)" の場合と同じく「発話時以前と発話時の間に連続性がない」ことをとりたてる過去完了形と、そのような働きを備えていない "-아/어 있었다" 形の相違と無関係ではないと考えられる。これらのことは、

(54) 집에 돌아가보니까 연탄불이 꺼져 **있었다.**
(54)" ＊집에 돌아가보니까 연탄불이 **꺼졌었다.**

のようなケースの成立状況と矛盾するものではない。(54)は「家に帰った時点」における「炭の火の状態」を述べた表現として成立するのに対し、(54)" は "집에 돌아가보니까" が含まれているため非文であるというインフォーマントの判断結果は、発話時との不連続性を問題とせず、発話時以前の特定時点のみを視野に入れた場合に "-아/어 있었다" 形が選択されることを示唆しているように見受けられる。一方、(54)、(54)" に似たケースと思われる

(53) 내가 갔을 때는 그 사람은 일어**나 있었다.**
(53)" 내가 갔을 때는 그 사람은 **일어났었다.**

において過去完了形の表現が成立するのはいかなる理由によるものであろうか。一つには、二形式の使い分けは絶対的なものではなく傾向であるにとどまるという見方が挙げられるのであるが、それだけでは不十分である。この点を補強するためのヒントと

なりそうなのが、過去完了形を用いた(53)”についての「起きるところを見ていた可能性がある」というインフォーマントの判断である。同様の例としては

(94) 어머니 옆에 아이가 앉**아 있었어요**.
(お母さんの横に子供が座っていました。)
(成戸 2020 の(2) a、『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』を一部修正)

(94)’ 어머니 옆에 아이가 **앉았었어요**.

があり、(94)は「見たら座っていた」ことを表わすのに対し、(94)’からは「直前に見たら座っていた or 座るところを見た」ことが想定されるという判断であった。さらに例を挙げれば、

(63) 개가 바닥에 누**워 있었습니다**.
(63)” 개가 바닥에 **누웠었습니다**.

(64) 자전거가 쓰**러져 있었다**.
(64)” 자전거가 쓰**러졌었다**.

(95) 불이 켜**져 있**기에 네가 있는 줄 알고 왔지.
(灯りがついていたから、お前がいるものと思ってきたんだよ。)
(『新装版 韓国語文法辞典』“-어/아/여 있다”の項)

(95)’ 불이 켜**졌었**기에 네가 있는 줄 알고 왔지.

などがあり、過去完了形を用いた(63)”、(64)”、(95)’はそれぞれ、話者が「横になるところを見た」、「倒れるところを見た」、「(灯りが)つくところを見た」ことが想定される点において、純然たる状態表現の(63)、(64)、(95)とは異なる。これらの判断結果からは、過去完了形を用いた表現の中には「状態が出現する直前の動作(or 現象)が視野に入っている」ケースが存在するということがうかがわれ、「大過去形」とも呼ばれる過去完了形の特徴、すなわち“-었-”を重ねて「過去の過去」を表わす働きをするという特徴とも矛盾しない。このように、過去の状態を表わす“-아/어 있었다”表現の場合とは異なり、過去完了形を用いた表現の中には、状態が出現する以前からの時間的な流れを含意するケースが存在するようである。以上のような見方は、過去完了形が「継続」を含意することとの整合性をどのようにとるかという課題を抱えているようにも思われるのであるが、「継続」を表わすことが過去完了形の主たる働きではないことを考慮すれば、許容されるのではなかろうか。

ところで、過去完了形と“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形との使い分けを考えるのであれば、移動動詞の“가다”、“오다”にも目を向ける必要がある。というのも、これらの動詞は“-고 있다”形、“-아/어 있다”形がいずれも成立するため、“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形に過去完了形を含めた三形式の直接比較が可能であるからである。成戸 2020:50 で紹介した『標準 韓国語文法辞典(“-아 있다”の項)』、前田 1982:74 の記述にみられるように、例えば

(96) 철수가 집에 가**고 있다**.
(成戸 2020 の(40) a、『標準 韓国語文法辞典』“-아 있다”の項)

(97) 그는 오오사카에 오**고 있다**.
(成戸 2020 の(36)、前田 1982:74)

はそれぞれ「チョルスが家に向かっている」、「出発点と大阪の間を移動中である」のように発話時において移動中であることを、

(96)’ 철수가 집에 가 **있다**.
(成戸 2020 の(40) b、『標準 韓国語文法辞典』“-아 있다”の項)

(97)’ 그는 오오사카에 **와 있다**.
(成戸 2020 の(37)、前田 1982:74)

はそれぞれ「チョルスが家に行っている(すでに家にいる)」、「大阪に到着した状態にある」のように発話時において到達した状態にあることを表わすという相違がみられる。すなわち、“가다”、“오다”は“-고 있다”と組み合わされて「移動動作の進行」を、“-아/어 있다”と組み合わされて「移動動作終了後の状態」を表わすというように、いずれの形式と組み合わされるかによって進行、状態が表現し分けられるのである[34]。“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形の使い分けも基本的には“-고 있다”形、“-아/어 있다”形のそれの延長線上に位置すると推察され、

例えば

(98) 철수가 집에 가**고 있었다**.
(99) 그는 오오사카에 오**고 있었다**.

は過去において移動中であったことを、

(98)’ 철수가 집에 가 **있었다**.
(99)’ 그는 오오사카에 **와 있었다**.

は過去においてすでに到着していたことを表わす[35]。2.2 でふれたように、“-아/어 있다”形が過去形との比較において「変化の結果状態の存在」が重要な情報である場合に用いられる形式であるとされることから[36]、発話時の結果状態を表わす“-아/어 있다”に対し、“-아/어 있었다”は発話時以前の結果状態を表わす形式であるとみることができる。このことから、“가 있었다”、“와 있었다”は「過去に到達した状態にあった」ことを表わす点においては

(98)” 철수가 집에 **갔었다**.
(チョルスが家に行っていた＝すでに家にいた)
(99)” 그는 오오사카에 **왔었다**.
(大阪に到着した状態にあった)

における“갔었다”、“왔었다”と共通する一方、発話時との対比を前提としていない点においては異なるのであり、この点は非移動動詞を用いた場合にもあてはまると考えられる。このことは換言すれば、“-아/어 있었다”、過去完了形は「過去の結果状態」を前提として用いられる点において共通する一方、前者は前述したように発話時以前の特定時点(いわゆる「基準時点」)のみを視野におさめている点で、発話時をも視野におさめている後者とは異なるということである[37]。興味深いのは、(98)”の“갔었다”、(99)”の“왔었다”をそれぞれ過去形の“갔다”、“왔다”と比較した場合、前二者は発話時から離れた過去の出来事を、後二者は発話時直前の出来事を表わすという相違(この点は(65)’と同様である)がみられるとともに、過去形である後二者が表わす出来事は「動作に近い」と感じられるというインフォーマントの判断結果が得られたことであり、両形式の相違における多面性がうかがわれる。

3.4 韓国語動詞のテンス・アスペクト形式と日本語の「Ｖタ」、「Ｖテイタ」

3.1～3.3における分析作業によって、先行研究では明らかにされなかった韓国語動詞過去完了形の特徴がうきぼりになってくるとともに、過去形、“-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形といったテンス・アスペクトに関わる諸形式との役割分担についても厳密な記述が可能となるほか、過去完了形を含めた韓国語諸形式と日本語「Ｖ**タ**」、「Ｖ**テイタ**」との共通点(or 相似点)や相違点、対応関係成立の要因が明らかとなろう。但し、過去完了形の位置づけについては、いま少し掘り下げてみておく必要があるように思われる。というのも、過去完了形は「現在形 ── “-고 있다”形、“-아/어 있다”形」、「過去形 ── “-고 있었다”形、“-아/어 있었다”形」のような「テンス形式 ── アスペクト形式」のペアを構成していないからである。このことは、過去完了形が過去形、現在形とともにテンスの系列を構成する一方で、「発話時との不連続」を前提として用いられる点において他の二形式とは異なる様相を呈しているという、3.3 で述べたことと表裏一体をなしていると考えられる[38]。

このように、過去完了形は現在形、過去形とは異なる特徴を帯びているため、これまでに述べた韓国語動詞の過去形、過去完了形の使い分けを日本語「Ｖ**タ**」、「Ｖ**テイタ**」のそれと比較してみると、両者は異なる次元のものであることがみてとれる。韓国語動詞のうち、継続動詞(or 動作動詞)は過去形であっても進行を表わすことが可能であり、同じく進行を表わす日本語「Ｖ**テイタ**」との間に対応関係が成立するのに対し、瞬間動詞(or 結果動詞)の場合は話し言葉において「話者が発話時に初めて目にした状態」を前提とした過去形の表現が成立し、状態を表わす日本語「Ｖ**テイル**」との間に対応関係が成立する。これらの対応例における韓国語動詞過去形は、動作(or 現象)を「発話時以前の出来事」として表わすテンス形式であるのに対し、日本語「Ｖ**テイタ**」、「Ｖ**テイル**」は進行や状態を表わすアスペクト形式である[39]。また、韓国語動詞過去形と進行を表わす日本語「Ｖ**テイタ**」との対応関係は、状態を表わす「Ｖ**テイル**」との対応関係、「過去の出来事」を表わす「Ｖ**タ**」との対応関係が成立するケースが存在することとの兼ね合いもあって限定的な範囲内において成立するものである。このため、過去に進行中であった動作(or 現象)を表わす過去形の働きは、「Ｖ**テ**

イタ」のそれに比べると限定的であるということとなり、このことは過去完了形との使い分けに連動していると推察される。一方、過去完了形と「Vテイタ」を比較すると、3.1で述べたように、前者は「発話時にはそのような状況にない」ことを明示するテンス形式であり「継続」を表わすことをその働きの一部とするのに対し、後者は「進行」、「状態」を表わすこと(すなわち継続を表わすこと)を主たる働きとするアスペクト形式であり、3.2 で述べたように「現在と状況が異なるという意味が含まれる」ことがあるために対応関係が成立する。さらに、1.2では、韓国語動詞過去形は「出来事を時間軸上の点として表わす働きの強さにおいて日本語『Vタ』におよばない」としたが、このことは換言すれば「過去形は継続の意味を必ずしも排除しない」ということであり、韓国語動詞の「過去形 —— 過去完了形」は、出来事を時間軸上の「点 —— 線」のように表現し分ける働きが日本語の「Vタ —— Vテイタ」の場合ほど強くはないということにつながる。

テンス形式である過去形、過去完了形とは異なって、“-고 있었다”、“-아/어 있었다” は出来事を時間軸上の線として表わすアスペクト形式であり、このことはいわゆる存在詞の過去形である“있었다”が含まれていることによっても明白である[40]。但し、これまで述べてきたように、過去の進行、状態を前提とした場合に必ずしも上記のアスペクト形式が使用されるわけではない。すなわち、進行、状態を表わすアスペクト形式の使用頻度が日本語「Vテイタ」ほどには高くない。このことは、韓国語の進行表現、状態表現における過去形、過去完了形の存在意義を支える大きな要因となっていると推察される。

以上のように、過去の進行、状態をめぐる日韓諸形式の使い分けについての考察は、必然的にテンス形式、アスペクト形式というレベルの異なる形式(これらはムード性を帯びることがある)を対象に含むこととなるのであるが、他言語の諸形式を比較の対象に加えることにより、新たなヒントが得られる可能性もある。次章では、中国語、フランス語の諸形式についてみていくこととする。

4 中国語、フランス語の表現形式との比較

4.1 中国語の“V了/着/过”と日本語の「Vタ」、「Vテイタ」

日本語「Vテイタ」に対応する中国語の表現形式としては、いわゆる時態助詞を用いた“V了”、“V着”、“V过”があり、これらはいずれもテンス形式ではない。

“V了”は動作(or 現象)の完了を明示する形式であり[41]、その働きの説明は日本語「Vタ」との対応例を用いてなされることが多いのであるが、「Vテイタ」が対応する以下のようなケースも存在する。

(100) 她上午写了三个小时左右小说。
／彼女は午前中三時間ほど小説を書いテイマシタ。(張麟声 2001:138)

(101) 我上午到了青岛，下午就在海边坐了半天。
／私は午前中青島に着き、午後海岸でしばらく腰を掛けテイタ。
(呂・載・賈著/荒屋編訳 1986:163)

“V了”は進行の意味を含んでいないにもかかわらず、(100)、(101)においては「書いテイマシタ」、「(腰を)掛けテイタ」のような「Vテイタ」形式が対応している。このことは「Vタ」との対応を排除するものではなく、(100)の「書いテイマシタ」を「書きましタ」としても成立し、(101)の場合は「掛けタ」では不自然であるものの非文ではない。(100)、(101)は、表現中に“三个小时左右(三時間ほど)”、“半天(しばらく)”のような時間量を表わす成分(=時間的な幅を表わす成分)が含まれていることを考えれば[42]、「Vテイタ」を対応させるのがふさわしいとも思われるのであるが、(100)と同じく「Vテイタ」、「Vタ」のいずれを対応させることも可能な

(102) 我等了两个小时。
／私は二時間待っテイタ。私は二時間待っタ。(輿水 1985:180 を一部修正)

のようなケースは決してめずらしいものではない。“V了”に対して「Vテイタ」、「Vタ」のいずれを対応させるのがふさわしいかは、例えば

(103) 他在买飞机票以前，等护照等了三天。

／彼は航空機の切符を買うまえに、3日間旅券を待っ**タ**。
（呂・載・賈著／荒屋編訳 1986:163）

（104）他写**了**一天，可没写好。
／彼は一日書い**タ**が、しかしうまく書きあげられなかった。（岡部編著 1990:99）

においてなぜ「待っ**タ**」、「書い**タ**」が対応しているのかを考える際に問題となるような、表現全体の内容や場面（or 文脈）との関わりによって最終的に判断されるべきものであろう。一方、荒川 2003:132 が“-**了**”の働きについての記述で挙げている

（105）我在北京住**了**一年。
／わたしは北京に1年住ん**デイタ**。
（荒川 2003:132）

（106）我学**了**三年汉语。
／私は3年中国語を勉強し**タ**。（同上）

を比較した場合には、状態性の強い“住／住む”を用いた（105）において「V**テイタ**」が選択されているという見方も成り立ちそうであるが、このような選択は、実際には話者が特に意識することなくなされていることも多いと思われる。“V**了**”に対して「V**タ**」のほかに「V**テイタ**」が対応するケースがあるという現象は、韓国語動詞過去形の場合に似ており、このことは、継続可能な動作（or 現象）を表わす中国語動詞が韓国語動詞と同じく進行の意味を内包していること、出来事を時間軸上の点として表わす働きの強さにおいて“V**了**”は「V**タ**」におよばないことを意味すると考えてさしつかえなさそうである。

これに対し、時間量を表わす成分を含んだ“V**了**”表現に語気助詞“-**了**”が加わった

（102）’我等**了**两个小时**了**。
／わたしは［もうこれで］二時間待っ**テイル**。（輿水 1985:180）

（107）我学**了**一年汉语**了**。
／わたしは〔もうこれで〕中国語を一年学ん**デイル**。（同上）

は発話時以降も継続する可能性をとどめており、このような場合には「V**テイル**」表現との対応関係が成立する[43]。但し、（102）’、（107）と同じく“V**了**＋時間量を表わす成分＋**了**”形式をとる中国語表現であっても、

（108）A：你等**了**我多长时间**了**？
／あなたは私をどのくらいの時間待ちまし**タ**か。
B：我等**了**你两个小时**了**！
／私はあなたを2時間（も）待っ**タ**んです。（岡部編著 1990:79）

（109）你到哪儿去了？ 我找**了**你半天**了**。
／あなたはどこへ行っていたの。私は長い間さがしまし**タ**よ。（同上）

のような「V**タ**」表現との対応例が存在することからみれば、（102）’、（107）の「待っ**テイル**」、「学ん**デイル**」を「待っ**タ**」、「学ん**ダ**」に置き換えても中国語表現との対応関係は許容されると考えられる。日本語表現との対応関係にこのような幅がみられる要因として考えられるのは、中国語表現における時態助詞“-**了**（“V**了**”の“-**了**”）”、語気助詞“-**了**（文末の“-**了**”）”いずれの働きに比重を置いて日本語に置き換えるかの相違が関係しているということ、すなわち、「完了」を明示する前者の働きに比重を置く場合には「V**タ**」が、発話時点において一定の時間量に到達していることを表わす後者の働きに比重を置く場合には「V**テイル**」が用いられるということである。また、“V**了**＋時間量を表わす成分＋**了**”はテンスとは無関係な形式であるため、発話時以前の特定時点における途中経過を表わす場合には

（110）他病**了**一个多星期**了**。
／彼は一週間あまり病気をし**テイマシタ**。
（同上:102）

のように「V**テイタ**」との対応関係が成立する。

完了を明示する“V**了**”に対し、“V**着**”は持続を明示する形式であり[44]、進行、状態を表わす「V**テイル**」との意味的な近似性のゆえに“V**了**”の場合よりも広い範囲で「V**テイル**」との対応関係が成立するというイメージがある。この反面、時制を反

映しない形式である点において“V**着**”は“V**了**”と共通しており、

(111) 花子房间的窗户开**着**(呢)。
／花子の部屋の窓が開い**テイル**。
(张岩红 2018:40)

(111)’花子房间的窗户开**着**(来着)。
／花子の部屋の窓が開い**テイタ**。
(同上:43)

のように「V**テイル**」、「V**テイタ**」のいずれとも対応関係が成立する。(111)、(111)’の中国語表現における“开**着**”は「動作結果の持続状態」を表わし、発話時、発話時以前のいずれであるかによって「開い**テイル**」、「開い**テイタ**」が使い分けられる日本語のような区別はない。“V**着**”には「動作結果の持続状態」のほかに「動作の持続状態」を表わす働きがあり、いずれもしばしば情景描写の表現に用いられる[45]。後者のケースとしては、例えば

(112) 交通艇嗖嗖地向前疾驶**着**。
／交通艇が音をたてて疾走し**テイル**。
(成戸 2014:414、≪实用现代汉语语法≫:230、『現代中国語文法総覧』:317)

(113) 张老师像雷一般地打**着**呼噜。
／チャン先生は雷のようないびきをかい**テイタ**。(荒川 2003:143)

のような「V**テイル**」、「V**テイタ**」との対応例が挙げられる。

ところで、岡部編著 1990:98-100、102-103 の記述にみられるように、動詞が時間量を表わす成分を補語とする場合には

(114) 他看**了**两个钟头小说。
(彼は小説を二時間読んでいた。)
(岡部編著 1990:103)

(115) 等**了**一会儿，他果然来了。
(しばらく待っていたら果して彼がやってきた。) (同上:98)

のように“V**了**”を用い、“V**着**”を用いた

(114)’＊他看**着**两个钟头小说。(同上:103)

(115)’＊等**着**一会儿，他果然来了。(同上:98)

は非文とされる。同様の記述は呂・戴・賈著／荒屋編訳 1986:163 にもみられ、(101)の“-**了**”を“-**着**”に置き換えた

(101)’＊我上午到了青岛，下午就在海边坐**着**半天。(呂・戴・賈著/荒屋編訳 1986:163)

は非文とされる。このことには、“V**着**”が「持続」を明示する形式であることが深く関わっていると思われる。「持続」という概念は時間の流れとは直接的な関わりを有しないものであり、時間的に有限ではない。(101)、(114)～(115)の中国語表現においては、動作が行なわれた時間量を表わす“半天”、“两个钟头”、“一会儿”のような成分によって時間的有限性が明示されているため、“V**着**”ではなく“V**了**”が選択されているのである[46]。一方、日本語「V**テイタ**」は時間的に有限であるか否かにかかわらず用いられるため、“V**着** ── V**テイタ**”、“V**了** ── V**テイタ**”いずれの対応パターンも存在するのである。

“V**着**”表現に対しては「V**テイタ**」のほか、「V**タ**」を用いた日本語表現が対応する以下のようなケースもみられる。

(116) 枪声的回音在山谷中反复振荡**着**。
／銃声は山の中をいくえにもこだまして響き渡っ**タ**。(荒川 2003:143)

1.1 では、「V**タ** ── V**テイタ**」が出来事を時間軸上の「点 ── 線」として表現し分けるペアをなしている点に言及した。このことは(116)の日本語表現についてもあてはまると考えられ、「響き渡っ**タ**」は「響き渡っ**テイタ**」に置き換えても非文ではないものの、思いうかぶ情景は全く同じというわけではなく、例えば前者は一発の銃声であり、後者は何発もの銃声であるというような場面が想定されるということも考えられよう。(116)の日本語表現において「V**タ**」が選択されたのは「銃声」が瞬間的な(or 短時間の)音であるためであろうが、原文の中国語表現には“V**着**”が用いられている。“V**着**”がしばしば情景描写の表現に用いられる点については前述した通りであり、(116)のケースもこれにあてはまる。これらのことから、上記のような“V**着** ── V**タ**”

の対応には、両形式の共通点(or 相似点)ではなく、情景描写の意図をもって選択される傾向のある“V**着**”と、必ずしもそうでない「V**テイタ**」の相違が大きく影響していると考えることができそうである。

時態助詞を用いた中国語の表現形式としては“V**了**”、“V**着**”のほか、さらに“V**过**”がある。教育の場においては、“V**过**”には「V**タコトガアル**」、「V**タ**」を対応させ、それぞれ「経験」、「完了」を表わす用法として紹介されるのが通例であるが、「V**テイタ**」との対応関係が成立する以下のようなケースもみられる。

(117) 哥哥今天早晨感概颇深地跟我说**过**这样的话。
／兄は今朝こんなことをしみじみ申し**テイマシタ**。
(張岩紅 2004:70、≪话说日本≫)

(118) 刚才老何找**过**你。
／今しがた何さんが君を捜し**テイタ**よ。
(≪现代汉语八百词≫、『中国語文法用例辞典』“来着”の項)

“V**过**”と「V**テイタ**」の対応については、“-**过**”とそれに対応する日本語の表現形式についての考察を行なった張岩紅 2004:66-68 が「日本語の経験を表す表現は『～シタコトガアル』であるが、先行研究によれば『～シタコトガアル』以外にも『～シテイル』『～シテイタ』『～シタ』でも経験を表せるという指摘がある」として藤井 1976、尾上 1982、工藤 1982、町田 1989、奥田 1993 の諸説を紹介していることがヒントとなろう。また、張岩紅 2004:70-71 は「時点は時間軸の上で、遠過去と近過去とに分けられる」とした上で、遠過去の例として

(119) 中学时，我就非常喜爱莎士比亚，自己也扮演**过**角色。
／高校のときはシェイクスピアが大好きで、自分で演じ**タコトモアル**んですの。
(張岩紅 2004:70、≪话说日本≫)

を、近過去の例として

(120) 前几天在京都的旅馆里，我也穿**过**那种衣服。
／この前、京都のホテルで私も着まし**タ**わ。
(張岩紅 2004:71、≪话说日本≫)

を挙げ、「出来事が遠過去の場合は『～シタコトガアル』と訳し、近過去の場合は『～シテイタ』『～シタ』と訳す傾向にある、と言える」、「『～シテイタ』は過去の継続相であり、『～シタ』は過去の完成相であり、どちらも経験を表せるので、どちらを使うかは文全体の内容と出来事との関係による」としている[47]。これに対し、呂・載・賈著／荒屋編訳 1986:93 に、

(121) 前几天，我在那个饭馆吃**过**饭。
／数日前、私はあのホテルで食事をしまし**タ**。(呂・載・賈著／荒屋編訳 1986:93)

の日本語原文は「ある動作の完了」ではなく「かつてこのようなことがあった」ことを表わしているために“V**过**”が用いられているのであって、このような場合に“V**了**”は用いられない旨の記述がみられることからは、遠過去、近過去の区別の境界が実際には曖昧であることがうかがわれよう((121)は(120)と同じく近過去の例とみられる)。遠過去と近過去の相違は、文字通りに解すれば「発話時から時間的に遠い過去か近い過去か」ということになるのであろうが、遠い、近いの区別はもともと相対的、主観的な性格を備えているため、このような基準自体が不明確な性格を帯びることは避けられない。これに対し、≪现代汉语八百词≫、『中国語文法用例辞典』における“过[2]”の項は、“動＋过”については「過去の経験を表すので、必ず過去という時間と関連をもつ」、「“動＋过”形式で表す動作は現在まで持続しない」とする一方、“動＋了”については「完了を表し、必ずしも過去との関連はない。過去に用いてもよいし、現在・未来に用いてもよい」、「“動＋了”の表す動作は現在まで持続することもありうる」と明確に記述している。同書は“動＋过”、“動＋了”についての記述において

(122) 去年我们游览**过**长城。
／去年長城に遊びに行っ**タコトガアル**。
(≪现代汉语八百词≫、『中国語文法用例辞典』“过[2]”の項)

のような「経験」を表わすケース、

（123）昨天我们游览**了**长城。
／昨日、長城に遊びに行っ**タ**。（同上）

のような「完了」を表わすケースを挙げているが、このような区別は遠過去、近過去の区別とは次元の異なるものであり、「**-タコトガアル**」を用いた（122）の日本語表現も、「経験」を表わす“V**过**”の働きを説明するための便宜上の訳であるように思われる。

また、岡部編著 1990:106 は「“过”は過去においてある事態があり、発言時にその状態が残っていないことを表す」のに対し、「“了”は“过”とちがって、その状態が残っている場合にも用いられる」としている。このことは、同:107 が“V**过**”表現の例として

（124）他来**过**。／彼は来**タコトガアル**。
（岡部編著 1990:107）

を、“V**了**”表現の例として

（124）’他来**了**。／彼は来**タ**。彼は来**テイル**。
（同上）

を挙げ、「現時点ではいない」ことを前提とする（124）の場合とは異なり、（124）’の中国語表現に対しては「V**テイル**」を用いた日本語表現を対応させていることにもあらわれており、発話時に結果が残っている場合に用いることが可能な“V**了**”の性格がみてとれる。このようにみてくると、（117）、（118）のような“V**过** ── V**テイタ**”の対応例はどのように理解すればよいかということが問題となってくる。持続を明示する働きをもたない“V**过**”を「V**テイタ**」と直接に比較した場合には、両者の共通点（or 相似点）や接点がうきぼりとなることはない（or なりにくい）ものの、“V**过**”に対して「V**テイタ**」が対応するケースが実際にみられることや、「V**テイタ**」が「V**テイル**」、「V**タ**」と同様に経験を表わすことが可能であるという指摘がなされていることからは、“V**了**”の場合とは異なって“V**过**”が持続との間に必ずしも排他的関係を有していないのではないかという考えがうかんでくるのであり[48]、この点については“-过”が形容詞に付加された

（125）她年轻的时候胖**过**。
（彼女は若い頃太っていた／太っていたことがある。）
（『中国語虚詞類義語用例辞典』“过 过分 过于”の項）

（126）前几天冷**过**一阵，这两天又热起来了。
（数日前はひとしきり寒かったが、この2日ばかり、また暑くなった。）
（≪现代汉语八百词≫、『中国語文法用例辞典』“过[2]”の項）

（127）他走后，清静**过**一阵，他一回来，房间里又热闹起来了。
（彼が出て行くと、しばらく静かだったが、もどってくると、部屋の中はまた賑やかになった。）
（『中国語虚詞類義語用例辞典』“过 过分 过于”の項）

のようなケースが存在することによっても理解できよう。また、『中国語虚詞類義語用例辞典（“过 过分 过于”の項）』が（127）における“-过”の用法について「現在と比較した過去のある一時期の状態を表す」としていることからは、発話時とは異なる状態を表わす働きの存在がみてとれ[49]、このことは、同形式の働きに関する≪现代汉语八百词≫、『中国語文法用例辞典』における“过[2]”の項や、岡部編著 1990:106 の前掲記述とも符合する。“V**过** ── V**テイタ**”の対応関係が成立するのは、両者のこのような共通点（or 相似点）に起因すると考えられ、韓国語動詞過去完了形と日本語「V**テイタ**」の対応関係が成立する現象に通じるものがある。

以上のように、“V**了**”、“V**着**”、“V**过**”のいずれにも「V**テイタ**」と対応するケースがみられる一方、対応関係が成立する要因は同じではなく、中国語の三形式はそれぞれ「V**テイタ**」が備えている特徴の一部との間に共通点（or 相似点）を有することによって対応関係が成立するのである。これらを韓国語の側からみれば、“V**了** ── V**テイタ**”は“過去形 ── V**テイタ**”の関係に、“V**着** ── V**テイタ**”は“-고 있었다 ── V**テイタ**”あるいは“-아/어 있었다 ── V**テイタ**”の関係に、“V**过** ── V**テイタ**”は“過去完了形 ── V**テイタ**”の関係にそれぞれ相当するということになり、日本語「V**テイタ**」との対応関係を介して詳細な検討を行なえば、テンス・アスペクトに関わる中韓諸形式の共通点（or 相

似点)、相違点が鮮明にうかび上がってくると考えられる。また、動詞に着目すれば、中国語動詞の場合には

(128) 她洗澡。／彼女はシャワーを浴び**テイル**。

(129) 他刚才总笑。
／彼はさっきずっと笑っ**テイタ**。
(張・佐藤・内田 1997:77)

のように、いわゆるハダカの動詞に対して「V**テイル**」、「V**テイタ**」のいずれも対応可能であるのに対し、韓国語動詞の場合には「現在形 ── V**テイル**」、「過去形 ── V**テイタ**」のような区別がみられるため、ここを切り口として中韓二言語における動詞の性格の相違を探ってみるのも有意義と思われる。

4.2 フランス語動詞の複合過去形、半過去形、大過去形、“être(半過去形) en train de+不定詞”と日本語の「Vタ」、「Vテイタ」

フランス語には「過去形」の名称をもつ形式として複合過去形、半過去形、大過去形があり、前二者については成戸 2014:411-424 において日本語との対照作業を行ない、一定の見解を提示した。入門・初級のテキストでは、複合過去形の説明においては日本語「V**タ**」を対応させた

(130) A midi, il **a déjeuné**.
／正午に彼は昼食を食べ**タ**。
(成戸 2014:413、目黒 2000:255)

のようなケースを、半過去形の説明においては「V**テイタ**」を対応させた

(131) A midi, il **déjeunait**.
／正午に彼は昼食を食べ**テイタ**。(同上)

のようなケースを挙げるのが通例である。しかしながら、複合過去形を用いたフランス語表現の中には

(132) Il **a joué** de la guitare dans sa chambre pendant deux heures.
／彼は２時間部屋でギターを弾い**テイタ**。
(成戸 2014:418、久松 2002:22)

(133) Il **a habité** en France pendant dix ans.
／彼は10年間フランスに住ん**デイタ**。
(成戸 2014:418-419、久松 2011:282)

のように「V**テイタ**」との対応関係が成立するケースも存在する。(132)～(133)はいずれも時間量を表わす成分を含んでいる点で、中国語“V了”との対応例である(100)～(102)、(105)と共通している。成戸 2014:413 で紹介したように、複合過去形は出来事を時間軸上の点として、半過去形は出来事を時間軸上の線として表わすとされる。時間軸上の点、線のいずれであるかは、(132)の「2時間」、(133)の「10年間」のような客観的な時間の長さによって決まるのではなく、起点と終点がともに明確な時間(or 期間)を表わす成分が含まれていれば時間軸上の点行為とみなされて複合過去形が用いられるのに対し、そうでない成分が含まれる

(134) Je t'**attendais** depuis longtemps.
／ずいぶん前からお前を待っ**テイタ**のだよ。
(成戸 2014:424、『新フランス文法事典』“imparfait de l'indicatif[直説法半過去形]”の項)

(135) Elle **habitait** à Paris depuis 1980.
／彼女は1980年からずっとパリに住ん**デイタ**。(成戸 2014:419、久松 1999:80)

のような場合には時間軸上の線行為とみなされて半過去形が用いられる。ついでながら、出来事の続いた時間(or 期間)の起点、終点がともに明確でさえあれば、一定の長さをもつ時間内に続いていた出来事であっても複合過去形を用いることが可能であり、日本語「V**テイタ**」との対応関係が成立するという現象は、動詞自身が「継続的」であるため、あるいは動詞過去形の「完了性」が日本語動詞の「**タ**」形ほど強くないために「V**テイタ**」との対応関係が成立する(14)のような英語動詞のケースとは事情が異なる。また、成戸 2014:419-420 でもふれたように、(132)、(133)の「弾い**テイタ**」、「住ん**デイタ**」をそれぞれ「弾い**タ**」、「住ん**ダ**」としても自然な表現であり、1.1 で紹介したように前者は出来事を時間軸上の線として、後者は時間軸上の点として表現するものである。この点ではフランス語動詞の複合過去

形、半過去形の使い分けに通じるものがあるようにも見受けられるのであるが、フランス語動詞複合過去形と共起する時間(or 期間)を表わす成分に求められる条件が「V**タ**」の場合にはないことから、「V**タ**」と複合過去形ではいかなるものを「時間軸上の点」とみなすかの点で異なるとみられ、これに連動していかなるものを「時間軸上の線」とみなすかの点でも異なってくると推察される。井上 2001:103-104 が、非状態形(完成相形式)「**スル／シタ**」は出来事を一つの閉じたまとまりとして述べる形式である(1.1 でも紹介した)とした上で、

(136) 8 時に朝ごはんを食べ**タ**。(井上 2001:103)

で述べられているのは「朝ごはんを食べる」という出来事が「8 時」とよぶことができる時間の中で「閉じている(完結している)」ということであるとする一方、状態形はある状態(人やモノの存在、属性の存在、動作の継続状態、変化の結果状態など)がある設定時点の前後に開かれた形で存在することを述べる形式であるとして

(136)' 8 時には朝ごはんを食べ**テイタ**。
(同上:104)

のような例を挙げ、(136)' は「食べている」という動作の継続状態が設定時「8 時」の前後に開かれた形で存在したことが述べられているとしているのは、日本語における時間軸上の「点 —— 線」の区別である。また、4.1 でとり上げた中国語の“V**了**”、“V**着**”はテンス形式ではないものの、時間量を表わす成分と共起する前者、共起せずに「持続」を表わす後者の間には「点 —— 線」の関係が存在すると考えたくなるのであるが、「持続」は時間の流れとは関わらない概念であって時間軸上に位置づけられるものではなく、この点でフランス語動詞の複合過去形、半過去形の場合とは異なっている。さらに、1.2 でふれた井上・生越 1997:48、許宰硯 2004:14 の記述からは、出来事を時間軸上の点として表わす働きをめぐる韓国語動詞の過去形、フランス語動詞の複合過去形、日本語「V**タ**」の相違を探るためのヒントが得られそうである [50]。これらの形式に中国語の“V**了**”を加えれば、「時間軸上の点」についてのより普遍的な記述が可能となり、それにより「時間軸上の線」もおのずとうきぼりになると予測される。

ところで、複合過去形、半過去形はいずれもテンス形式であるのに対し、フランス語には過去の進行に関わるアスペクト形式として“être(半過去形) en train de+不定詞”が存在する。成戸 2020:54 で述べたように、“être en train de+不定詞”は韓国語の“-고 있다”、中国語の“在V”と同じく「進行中であることをとりたてる」働きを有する形式であり、“être”は“있다”、“在”と同じく「**アル／イル**」という存在の意味を表わす動詞としても働く成分であるなど、進行形式を形成するにいたる発想の点でも共通している [51]。過去の進行を表わす場合には、フランス語の“être en train de＋不定詞”であれば

(137) Il **était en train de** chanter.
／彼は歌っ**テイタ**。(青木 1987:25)
※日本語訳は筆者

(138) On **était en train d'** écouter la jeune fille.
／人々は若い娘の歌を一心に聞い**テイタ**。
(同上:28、『フランス文法大全』:252)

のように“être”を半過去形に、韓国語の“-고 있다”であれば 2.1 でとり上げた“-고 있었다”のように“있다”を過去形にするのに対し、中国語“在V”の場合にはこのままの形で

(139) 这两年我一直**在**等你。
／この 2 年間私はずっと君を待っ**テイタ**。
(荒川 2003:145)

(140) 你刚才**在**跟谁说话啊？
／あなたはさっき誰と話をし**テイタ**のですか。(同上)

のように用いられる。ちなみに、青木 1987:28 が(138)のフランス語表現について「主体の意志的な活動の継続」、「主体の意志により選び、区別出来る性質のもの」としていることは、同形式が有情物による意志的な動作について述べる場合に用いられる傾向にあることを示唆しているようにもみえる。これは、石綿・高田 1990:56 の「英語の動詞のなかには進行形をもたないものがある。状態、知覚、感情、知識など、意志で統御できないものに関するものは、

進行形がないといわれる」という記述に通じることであり、進行表現が主として有情物の意志的な動作を前提として用いられる傾向にあるという考え方につながると同時に、成戸 2014:396-398 において“être en train de＋不定詞”は日本語の「**Vテイルトコロダ**」に比べると意志的な動作を表わす形式としての性格が弱く、無情物について述べる場合にも用いられると述べたことと矛盾するものではない。一方、韓国語の“-고 있었다”の場合には、(5)”のように無意志の出来事、すなわち現象を表わすケースが存在するという相違がみられる。これらのことからは、フランス語“être(半過去形) en train de＋不定詞”、韓国語“-고 있었다”の間に上記のような傾向の強弱において差異が存在する可能性がみてとれそうであり、日本語「**Vテイタ**」や中国語“在V”を加えた進行表現についてのより普遍的な考察につなげることもできそうである[52]。

一方、フランス語には「大過去形」とよばれ、「過去の過去」を表わす時制形式と位置づけられているものが存在する。フランス語動詞の大過去形の働きを、同じく「大過去形」ともよばれる韓国語動詞の過去完了形と比較することからは、韓国語動詞のテンス・アスペクト体系における過去完了形の働きについて従来よりも厳密に記述するためのヒントが得られそうである。このように考えるのは、「大過去形」がテンス的側面を前面に出した呼称であり、フランス語の「大過去形」と比較することを通して韓国語動詞「大過去形(過去完了形)」の特徴がより詳細かつ具体的な形でうきぼりとなることが期待できるからである。ちなみに、「過去完了」という用語はフランス語動詞の大過去形の説明においても用いられることがあり、六鹿 2016:207 は「大過去形の基本は過去完了としての用法です。『すでに…してしまっていた』という意味になります[53]。また、過去の反現実仮定を表す形として si『もし…ならば』とともに用いられます」とする一方、過去完了について「過去のある時点を基準点に取り、その時点にはすでに出来事は完了してしまっていた、ということを表します。基準点における状況を描くために用います」として

(141) Quand Maryse est arrivée à la gare, le train **était** déjà **parti**.
(マリーズが駅に着いたとき、列車はもう出発してしまっていた。)　(六鹿 2016:207)

(142) À 30ans, Rémy **avait** déjà **divorcé** deux fois.
(30 歳のときレミはすでに 2 度離婚を経験していた。)　(同上)

などの表現例を挙げている。同様に、目黒 2000:259 は「大過去時制の主要な働きは＜過去完了＞を示すことにある。すなわち、過去のある時を基準として、その時以前にすでに完了している動作・状態を表す」とした上で、過去完了の用法の中に「過去のある時までの動作の継続」を含めており、『フランス文法大全』:291 にも同趣旨の説明がみられる。これらの記述からは、フランス語動詞の大過去形が、「過去完了」、「継続」という特徴を備えている点において韓国語動詞の過去完了形のそれと共通していることがみてとれるのであるが、「発話時にはそうでなくなっている」ことを前提とするか否かについては言及されていない。しかしながら、発話時以前に完了した出来事が発話時に存在しなくなっているのは言うまでもないことであるため、韓仏二言語の大過去形の比較を行なうに際し、両者の働きが細かな点では異なっており、このことが韓国語動詞の「過去完了形」、フランス語動詞の「大過去形」という呼称の相違にも反映しているという予測のもとに検討をすすめていくのは、大筋では間違っていないと考えられる。例えば、韓国語動詞の過去完了形を用いた

(143) 몸이 아파서 일주일간 병원에 **입원했었어요**.
(病気で一週間病院に入院していました(今は退院したけど)。)
(『新装版 韓国語文法辞典』:11)

の場合には発話時点で出来事が存在しなくなっていることが明白であるが、起点と終点が明確な“일주일간(一週間)”が含まれている点に着目してフランス語動詞複合過去形の働きと比較してみることで、韓国語動詞過去完了形とフランス語動詞大過去形の相違も一層鮮明にうかび上がってくる可能性がある。また、目黒 2000:261-262 が、稀な用法としつつもフランス語動詞大過去形の働きの一つとして挙げている「複合過去の代用」、すなわち、本来であれば複合過去形を用いるべき「現在を基準としてその前に完了した行為を表す」場合に大過去形を用いることによって、現在との隔たりを強調するという用

法にも目を向ける必要がある[54]。このような用法は稀とは言いながら、3.1 でとり上げた韓国語動詞過去形と過去完了形の相違が曖昧となる(85)～(87)、(89)のケースに通じるものがあって興味深く、この点についての比較検討を通して「大過去形」に関する新たな知見が得られる可能性がある。

5 おわりに

以上、日本語「**Vテイタ**」とそれに対応する韓国語動詞過去形をはじめとする両言語の諸形式、中国語やフランス語の諸形式をとり上げ、対応関係が成立する要因を探るための着眼点、分析方法、予測される結論を述べてきた。進行表現、状態表現についての考察は、日本語であれば「**Vテイル**」のみならず「**Vテイタ**」をも対象に加えなければ十分なものとはならない。これは、韓国語と比較した場合にとりわけ強く感じられることであるが、英語やフランス語、中国語などと比較した場合にもしばしば感じられる。発話時、発話時以前の双方を視野におさめない限り、進行表現、状態表現の全貌を明らかにすることはできないのであり、このことは、日本語において「**Vタ** ── **Vテイル**」、「**Vタ** ── **Vテイタ**」の使い分けが問題となることや、韓国語において“過去形 ── -아/어 있다形”、“過去形 ── -고 있었다形”、“過去形 ── -아/어 있었다形”の使い分けが問題となることをみても理解できよう。このような前提で進行表現、状態表現の対照作業を行なうことによって、テンス・アスペクトに関わる異言語諸形式の間にどのような共通点(or 相似点)、相違点が存在するかが明らかとなり、ひいては言語の枠を越えた普遍的なテンス・アスペクトの記述が可能となるのである。

注

1）この点については、さらに江田 2013:21、132-134、144-152、271-272 を参照。

2）これらの点については井上 2001:104-105、許宰硯 2005:92-93、近藤 2008:69 を参照。高橋ほか 2005:80-81 における「完成相と継続相」についての記述もこれに通じるものである。

3）江田 2013:130 は、「**Vタ**」、「**Vテイタ**」の誤用がいわゆる非用(学習者が学習した項目のうち、母語の影響などで使いにくいものを避け他の方法によって表現しようとする傾向)によって生じる点にも言及している。

4）井上・生越 1997 の記述は、日本語の「シタ」は動作が実現された直後(動作そのものは継続中)に使えるのに対し、韓国語の「シタ」相当形式である hayssta は一定の収束感がないと使いにくいとして井上 2001:157 にも紹介されている。

5）高正道 1986:48 は、“나는 그 때 한창 술을 **마셨다**.／私はその時さかんにお酒をのん**デイタ**。”などを挙げている。ちなみに、同表現をより自然な語順に改めたものが(1)である。

6）進行を表わす現在形の用法がもっぱら話し言葉におけるものである点については、成戸 2020:55 でふれた。

7）インフォーマントによれば、過去形を用いた(5)の場合は「実際に情景をみている」ことが想定されるのに対し、“-고 있었다”形を用いた(5)”の場合は「詩的な表現」であるという。成戸 2020 の注 44 では身につけ動作を表わす“-고 있다”形式の状態表現がもつ描写性に言及した。

8）成戸 2020 の注 18 では、해요体の動詞が動作の進行を表わす点について述べた。(23)の“가르쳐요”、“가르치고 있어요”はいずれも「断続的に繰り返し行なわれる動作」すなわち進行を表わしているとみてさしつかえない。この点については成戸 2020:46、50、52-53 を参照。

9）“-고 있다”が進行を表わす働きを有するにいたった歴史的経緯については、許宰硯 2005:94-95、99-100、李炫淨 2013:58、李忠均 2018:191-192 を参照。

10）(24)のようなケースについては成戸 2020:53 で述べた。井上 2001:157 は、過去形“웃었다(笑った)”が用いられる要因の一つとして「笑うか笑わないかだけに関心があり、笑う動作の継続には関心がない」を挙げている。

11）“뭘 그렇게 열심히 보**고 있었어**？(何をそんなに夢中に見ていたの？)(イム・ジョンデ 2004:65)”についてのネイティヴ・チェックでも、自然さの度合いにおいて“뭘 그렇게 열심히 **보았어**？”と同程度であるとされた。この場合は“열심히(夢中に)”が含まれていることと関係があるかも知れない。

12）成戸 2020:56 では、“-는 중이다”に対して「**-ルトコロダ**」が対応するケースがみられ、“-는 길이다”、“-ㄹ(을) 참이다”との使い分けが問題となる点についても紹介した。

13）許宰硯 2005:90 には過去形、“-고 있다”形の働きの連続性についての記述がみられる。

14）“-고 있다”表現が表わす進行、状態については、成戸 2020:47、同 2021:41 でも紹介した。『標準 韓国語文法辞典(“-고 있다”の項)』は(46)について「進行中の動作と完了した状態の継続の両方の意味を表している」とする。高正道 1986:43 に挙げられている“그는 천천히 모자를 **쓰고 있었다**.(彼はゆっくり帽子をかぶりつつあった。)”、“그는 빨간 모자를 **쓰고 있었다**.(彼は赤い帽子をかぶっていた。)”は、表現内容からいずれかに特定されるケースである。

15）(49)の“알**고 있었다**”に対し、日本語の「知っ**テイタ**」が表わすのは状態であって、進行を表わすには「知り**ツツアッタ**」のような形をとる。これらの点については、國廣 1982:17-18、江田 2013:154-155、成戸 2020 の注 45 を参照。成戸 2020:60-61 では、“저는 알**고 있습니다**.／私は知っ**テイマス**。”について、“-고 있다”を用いた韓国語は動作の側に属せしめられているのに対し、心理動

詞の「-**テイル**」形を用いた日本語は形容詞的な性格が強い(＝非動作としての性格が強い)とみられているとした。

16) “그 중 한 사람은 이쪽으로 등을 돌리**고 있었**고, 또 한 사람은 옆을 향해 의자에 앉**아 있었다**.(その男の一人は、こちらに背を向け、もう一人は横を向いて椅子にかけていた。)(生越 1987:98)”は、他動詞を用いた“등을 돌리**고 있었**고(背を向け(ていた))”が“-고 있었다”形、自動詞を用いた“의자에 앉**아 있었다**(椅子にかけていた)”が“-아/어 있었다”形であるというように、登場人物の（動きをともなわない)姿勢を描写する表現において両形式が使い分けられているケースであり、前者は動作の側に属せしめられていると考えられる。このような現象は、成戸2020:48で述べた「他動性(transitivity)」の高低の差異という視点からとらえることが可能である。また、同:49では“-아/어 있다”が他動詞と組み合わされて動作の結果状態を表わす現象について述べたが、この点についても“칠판에 내 이름이 쓰**여 있었다**.／黒板に、私の名前が書かれ**テイタ**。(『標準 韓国語文法辞典』“-아 있다”の項)”、“벽에는 남자 배우 사진이 덕지덕지 붙**어 있더라**.／壁には男の俳優の写真がべたべた貼っ**テアッタ**よ。(『新装版 韓国語文法辞典』“-어/아/여 있다”の項)”のような対応例がみられることから、“-아/어 있었다”についても同様のことがあてはまると考えられる。成戸2020:47-48で紹介したように、“-아/어 있다”と組み合わされる動詞は自動詞に限定されるという説明がなされるものの、上記の対応例では他動詞が用いられている。このような現象の説明については、対応する日本語表現における「書かれ**テイタ**」、「貼っ**テアッタ**」に関する分析がヒントとなろう。これらはそれぞれ「他動詞の受け身形＋**テイタ**」、「他動詞＋**テアッタ**」の形で動作終了後のモノの存在状態を表わしており、他動詞が「自動詞化」されたものとみることが可能であるため、韓国語表現における“쓰여 있었다”、“붙어 있더라”についても、“-아/어 있(었)다”形をとることによって他動詞が自動詞化されているとみることができよう。

17) 成戸2021:43では、状態表現における過去形と“-고 있다”形の使い分けが、“-고 있다”形の進行を表わす働きとの兼ね合いから過去形、“-아/어 있다”形の使い分けとは異なる様相を呈している点について述べた。

18) (60)’は成戸2021の注3で挙げた“일이 너무 **밀렸**어, 오늘 밤 잠은 다 잤다.／仕事がたまっ**テイル**、今夜は寝られない。(石賢敬2014:60)”と同じく、話者が発話時に初めて目にした状態を前提としているとは限らないケースである。(61)は、李忠均2010:30が「現在の単なる状態」を表わす例として挙げている“목이 **말랐다**.／喉が渇いテイル。”、“잎사귀는 너덜너덜하고 갈색으로 **시들었다**.／葉はぼろぼろになり、あちこちで茶色く枯れ**テイル**。”と同様のケースであると考えられる。

19) (65)’に通じると思われるケースとしては、許宰硯2005:103が「太郎君の家に電話したら、母親が出て『太郎は図書館に行っている』という」のような場面設定で用いられる表現として挙げている“타로오는 지금 도서관에 **갔어**.(太郎は今図書館に行ってるよ。)”がある。

20) これらの点に着目して、安・福嶋2005は現代韓国語動詞過去形と中世末期日本語動詞「**タ**」形の働きの比較を行なっている。両者の働きの近似性については、さらに安平鎬2001:208-212、同2005:101-103、105、李忠均2018:200-201、『新版 日本語教育事典(「テンス・アスペクトの歴史」の項)』、『日本語文法事典(「アスペクト[3] 古代語」の項)』などを参照。

21) 日本語における「継続動詞(or 動作動詞)」、「瞬間動詞(or 変化動詞)」については、成戸2020:47、同2021:34を参照。

22) これらの点については、1.2で紹介した高正道1986:47-48、過去形がその用法の歴史的変化の結果として「完了持続性」をとどめているために「進行」を表わすと主張する許宰硯2005:95、97-98、結果状態を表わす過去形の用法の歴史的変遷について述べた李炫淨2013:48などが参考となろう。

23) 成戸2021の注20で紹介したように、形容詞は「状態動詞」とよばれることがある。この点については、さらに浅井2009:74、『新装版 韓国語文法辞典』:58を参照。

24) 成戸2021:37-38では現在形、過去形がアスペクト的側面、ムード的側面を合わせもつケースがある点についても言及した。安・福嶋2005:141、李忠均2010:35には、非アスペクト形式である現在形、過去形がアスペクト形式とともにアスペクト体系を構成していることがみてとれる記述がある。

25) この点については國廣1982:8-12、井上2001:97-100を参照。

26) 但し、“선생님께서 오신다고 그 사람이 **말했었어요**.／先生がきたと、彼が言っ**テイマシタ**。(浅井2009: 167)”、“김 선수는 지난 대회에서도 메달을 **땄었어요**.／キム選手は、前回の大会でもメダルを取っ**テイマシタ**よ。(『標準 韓国語文法辞典』“-았었-”の項)”における「言っ**テイマシタ**」、「取っ**テイマシタ**」のような、継続的な出来事を表わす働きをもたない「V**テイタ**」との対応例も存在する。この点は過去形と「V**テイル**」の対応についても同様であり、“누가 그런 말 {??하고 있어/**했어**}？／だれがそんなこと言っ**テル**の？(許宰硯2005:99)”のようなケースがみられる。「V**テイル**」、「V**テイタ**」のこのような用法については、江田2013:134-135、273を参照。

27) 過去形を用いた(73)”は、筆者のインフォーマント調査では「降っ**タ**」、「降っ**テイタ**」のいずれを表わすことも可能とされた(但し“어제**는** 하루 종일 비가 **왔어요**.”のように“는”を付加する必要がある)。『標準 韓国語文法辞典(“-았었-”の項)』の“어제 부산에 눈이 많이 **왔었어**.／昨日、釜山に雪がたくさん降っ**タ**。”における“왔었어 ── 降っ**タ**”の対応からは、「継続」を表わすことが過去完了形の主たる働きではないことがうかがわれるのではなかろうか。

28) ネイティヴ・チェックでは、(74)が「『飲ん**デイマシタ**』を表わすか否かは微妙であり、どちらかと言えばそのような意味にはとりにくい」とされ、“마셨다”、“마셨어요”が「のん**デイタ**」、「飲ん**デイマシタ**」のいずれにも解されるとされた(1)、(22)におけるBの発話とは異なる判断結果となった。

29) 同書は「特に状態動詞の場合にはこのような文がよく見られる」とも述べているが、成戸2021:45で言及したよう

に、韓国語においては動詞と形容詞の境界が明確とは言い難く、動詞的性格の強いものから形容詞的性格の強いものまでが段階的に存在する可能性がある。

30) このような特徴は、井上・生越 1997:37-38 に、韓国語動詞過去形との共通点として挙げられている。ちなみに、高正道 1986:48-50 は、韓国語動詞過去形が表わす Perfective の意味を「なんらかの点で現在とむすびついているか否か」によって「ペルフェクト(Perfect)的な過去 —— 発話の瞬間以前に起った動きや変化がなんらかの点で現在とむすびついているというニュアンスをもつ」、「アオリスト(Aorist)的な過去 —— 現在から相対的に切り離された過去の特定の一つの時間に実現した動きや変化を表すことが出来る」に分けている。

31) 「過去完了形」が「大過去形」ともよばれる点については 3.1 で紹介した NHK2004 年 4 月:62-63 のほか、さらに梅田・村崎 1982:46 を参照。李炫淨 2013:54-55 は「大過去時制」という用語を用いている。形容詞の過去完了形については、浅井 2009:136、李炫淨 2013:54-55 などを参照。梅田・村崎 1982:46-47 は“-었었-”を「複合過去形」と示している。

32) 進行相、結果相は、「継続」という概念が具体的言語条件の中で実現し得る対峙的意味と位置づけられることがある。この点については、成戸 2009:346、同 2014:380 を参照。

33) 過去形を用いた“새 우는 소리가 **들렸다**.／鳥の鳴く声が聞こえ**タ**。(成戸 2021 の(4)、石賢敬 2014:66)”については、「聞こえ**テイタ**」の意味を表わそうとするのであれば(93)のように過去完了形を用いるべきであるとされた。同様のことは(6)、(12)についてもあてはまり、進行、非進行の間でゆれる過去形の性格や、過去完了形の存在がこのような判断結果につながった可能性が考えられる。

34) 成戸 2020:49 では、“살다”のような非移動動詞がいずれの形式と組み合わされるかによって語義の特定がなされるケースにも言及した。

35) 移動動作の進行を表わす“-고 있었다”形に対しては、“창문으로 내다보니 군인이 우리집으로 **오고 있었다**.／窓をとおして見ると、軍人が私の家に来**ツツアッタ**。(高正道 1986:52)”のように日本語の「移動動詞＋**ツツアッタ**」形が対応するケースもある。注 15 では「知り**ツツアッタ**」についてふれた。

36) この点については、さらに高正道 1986:49、54 を参照。

37) 「基準時点」は、話者が出来事を言語化するにあたって基準とする特定時点を表わす用語であり、発話時でも発話時以前でもよい。「基準点」、「基準時」などともよばれている。成戸 2014:406 を参照。

38) 現在形や過去形とは異なる過去完了形の独自性はその呼称にもあらわれており、「過去完了」にはテンス的な「過去」、アスペクト的な「完了」という用語が同居している(「大過去」はテンス的である)。

39) 但し、「V**テイタ**」にムード的用法がある点にふれた江田 2013:135 にみられるように、アスペクト形式がムード性を帯びることがある。

40) 成戸 2021:42 では、“-고 있다”における“있다”の語彙的意味が“-아/어 있다”におけるほどには強くないとみられる点に言及した。

41) この点については成戸 2021:46 でもふれた。

42) 張麟声 2001:139 には、(100)に“在(～ている)”を加えた“她上午**在**写**了**三个小时左右小说。”が成立しないのは、この表現の焦点が「動作が進行した時間の量」であり、「彼女は小説を書いている」が示している動作の主体のあり方ではないことによる旨の記述がみられる。

43) この点については郭春貴 2001:138 を参照。荒川 2003:132 には、“我在北京住**了**一年。(わたしは北京に 1 年住んでいた。)”は「もはや住んでいない」ことを、“我在北京住**了**一年**了**。(わたしは北京に住んで 1 年になる。)”は「(今後住み続けるかどうかは別として)少なくとも現在まで住んできた」ことを表わす旨の記述がみられる。後者のタイプには、“我学**了**三年**了**。／勉強して 3 年**ニナル**。(郭春貴 2001:133)”のような「**ニナル**」との対応例や、“我住**了**两年**了**。／私は住んで 2 年**ニナリマシタ**(2 年住みまし**タ**)。(郭春貴 2001:136)”のような「**ニナッタ**」との対応例、さらには“我学**了**三年汉语**了**。／3 年中国語を勉強し**テキタ**。(荒川 2003:132)”のような「V**テキタ**」との対応例もみられる。

44) 「進行」とは異なり、本稿では「持続」をアスペクトに関わる概念とはみなさない。成戸 2021 の注 24 では、動詞に付加された“-着”をアスペクトマーカーとみるべきか否かについての議論があることを紹介した。

45) (111)、(111)’の“呢”、“来着”は、両表現の相違を明確に示すために付加されている成分である。インフォーマントによれば、(111)は“呢”を付加した場合には「今ちょうど開いているよ」というニュアンスを帯び、付加しなければ単なる事実を述べる表現となるのに対し、(111)’は“花子房间的窗户开**着**来着。”で「今はもう窓が開いているという状態はなくなった」ことを表わすとされた。“花子房间的窗户开**着**。”については、「開いていた」ではなく「開いている」を表わすとされ、判断の微妙さがうきぼりとなった。成戸 2020:54-55 では、“她洗澡**呢**。(彼女はシャワーを浴びている。)(成戸 2020 の(67))”のような“呢”を用いた進行表現について「動作が発話時に進行中であることを認める話者の心的態度(ムード)を反映する非アスペクト表現」であるとしたが、“在V”表現、“V着”表現に“呢”が共起する場合は、発話時以前の進行を表わす“他们**在**打乒乓球**呢**。(彼らは卓球をしていた。)(岡部編著 1990:76)”、“我找他的时候，他**正在**吃饭**呢**。(私が彼をたずねた時、彼はちょうどごはんを食べていた。)(同上)”、“你们在屋里谈话，我一直在门外头听**着呢**。(君たちが部屋の中で話しているのを、ぼくはドアの外で聞いていたよ。)(荒川 2003:145)”のような表現も成立する。動詞に付加される“-着”の場合とは異なって、“来着”は“呢”と同じく表現全体に付加される成分とされ、このことは、『中国語文法用例辞典』が“来着”の項において「文末だけに用いられ、文全体を認定する」として“刚才老何找你**来着**。／今しがた何さんが君を捜し**テイタ**よ。”のような発話時以前の進行を表わす「V**テイタ**」との対応例を挙げていることにも示されている(张岩红 2018 に収録されている例としては“花子刚才写信**来着**。／花子はさっき手紙を書い**テイタ**。(同:41)”がこれに該当する)。但し、同書は“来着”の働きについて「文末に用いて、過去に何が起こったかを表す」とし

て“你忘了小时候爸爸怎么教育咱们**来着**。／子供のころ、父さんがぼくたちをどんなふうに教育し**タ**のか、おまえは忘れちまったんだな。”、“上个星期你是不是去香山**来着**？／先週香山へ行きまし**タ**か。”のような「V**タ**」との対応例を挙げてもいることから、“来着”を用いた表現が必ずしも進行や状態のような「継続」を前提とはしないことがうかがわれる。“V**着**”が表わす「動作結果の持続状態」、「動作の持続状態」については、成戸 2020:54、61-62 を参照。

46) この点については成戸 2014:419 でもとり上げた。「持続」が時間の流れと直接的な関わりを有しない点については、成戸 2009:332-333、同 2014:393-394 で述べた。これらは注 44 と関連する。

47) ≪中国語虚詞類義語用例辞典(“过 过分 过于”の項)≫は“-过”の用法として「過去の経験」を表わす「経験態」、“-了”と基本的には同じ意味で用いる「終了態」を示しており、前者の例として“我们去**过**两次中国。／私達は 2 度中国へ行っ**タコトガアリマス**。”のようなケースを、後者の例として語気助詞“-了”と共起する“我吃**过**午饭**了**。／昼食をすませまし**タ**。”のようなケースを挙げている。“-了”と共起するケースの中には、“赶到那儿，第一场已经演**过了**。／駆けつけたときには第 1 場はすでに終わっ**テイタ**。(≪现代汉语八百词≫、『中国語文法用例辞典』における“过 [2]”の項)”、“当青年们在田野里工作的时候，平原上已降**过了**初雪。／青年たちが野外で働いていた時に、平原にはすでに初雪が降っ**テイタ**。(張暁鈴著／原田寿美子・張勤訳 2001:84、≪孙犁小说选≫)”のような「V**テイタ**」との対応例もみられる。“我曾在 8 号楼 305 号房间住**过**。／私はかつて 8 号楼 305 室に住ん**デイタコトガアル**。(呂・載・賈著／荒屋編訳 1986:92)”のような「-**テイタコトガアル**」との対応例がみられることは、“V 过”との対応における「-**テイタ**」、「-**コトガアル**」の使い分けが必ずしも排他的な関係にないことを示している。

48) 成戸 2021 の注 26 では、“V 了”が「持続」とは相容れない点について紹介した。

49) ちなみに『現代中国語総説』:271 には、形容詞に付加された“-过”は性質あるいは状態がすでに過去のものとなっていることを表わし、“上海从来没有这么冷**过**。(上海はこんなに寒かったことがない。)”のような否定表現に用いられることが多い旨の記述がみられる。

50) 金京愛 2006:207-208 には、姿勢を表わす韓国語動詞が時間量を表わす成分と共起するケースにみられる過去形使用の可否、日本語「V**タ**」、「V**テイタ**」との対応についての記述がみられる。

51) 但し、成戸 2020 の注 15 で紹介したように、“être en train de＋不定詞”には非継続動詞を用いることも可能である。

52) 成戸 2009:371 では、“在V”が有情物を主体とするという見方について紹介した。

53) 『フランス語学小事典(「大過去(plus-que-parfait)」の項)』には大過去についての簡潔な記述が、石綿・高田 1990:64 にはフランス語動詞の「大過去形」の形式的・意味的な特徴についての記述がある。

54) このような用法の例として、目黒 2000:262 は“Me voici arrivé en retard ; on m'**avait** pourtant **dit** de venir à l'heure.(このとおり遅れてしまった。時間に来るように言われていたのに。)”を挙げている。

参考文献

青木三郎 1987.「現代仏語のアスペクト・テンス・モダリティ ── être en train de＋infinitif と現在形について ──」,『フランス語学研究』第 21 号，日本フランス語学研究会，20-35 頁。

浅井伸彦 2009.『これ一冊で！基礎を固める 快速マスター韓国語』，語研。

朝倉季雄『新フランス文法事典』，白水社(2002)。

荒川清秀 2003.『一歩すすんだ中国語文法』，大修館書店。

安平鎬 2001.「韓国語の『タ』:『hayss-ta(했다)をめぐって』」，つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』，ひつじ書房，207-250 頁。

安平鎬・福嶋健伸 2005.「中世末期日本語と現代韓国語のテンス・アスペクト体系 ── 存在型アスペクト形式の文法化の度合い ──」,『日本語の研究』第 1 巻第 3 号，日本語学会，139-154 頁。

石綿敏雄・高田誠 1990.『対照言語学』，おうふう。

井上優・生越直樹 1997.「過去形の使用に関わる語用論的要因 ── 日本語と朝鮮語の場合 ──」,『日本語科学』第 1 号，国立国語研究所，37-51 頁。

井上優 2001.「現代日本語の『タ』── 主文末の『…タ』の意味について ──」，つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』，ひつじ書房，97-159 頁。

イム・ジョンデ 2004.『初級から上級まで学べる 完全マスターハングル文法』，DHC(2 版 2014)。

梅田博之・村崎恭子 1982.「現代朝鮮語」,『講座日本語学 11 外国語との対照Ⅱ』，明治書院，40-60 頁。

『NHK ラジオ 안녕하십니까？ ハングル講座』2004 年 4/6 月号，日本放送出版協会。(略称 NHK)

岡部謙治編著『この中国語はなぜ誤りか』，光生館(1990)。

奥田靖雄 1993.「動詞の終止形(その 1)」,『教育国語』第 2 期第 9 号，むぎ書房，44-53 頁。

生越直樹 1987.「日本語の接続助詞『て』と朝鮮語の連結語尾 {a} {ko}」,『日本語教育』第 62 号，日本語教育学会，91-104 頁。

生越直樹 1995.「朝鮮語 했다形、해 있다形(하고 있다形)と日本語シタ形、シテイル形」,『国立国語研究所報告 110 研究報告集 16』，国立国語研究所(秀英出版)，185-206 頁。

生越直樹 1997.「朝鮮語と日本語の過去形の使い方について ── 結果状態形との関係を中心に ──」,『日本語と外国語との対照研究Ⅳ「日本語と朝鮮語」下巻 研究論文編』，国立国語研究所，139-152 頁。

尾上圭介 1982.「現代語のアスペクトとテンス」,『日本語学』

第1巻第2号，明治書院，17-29頁。
郭春貴 2001.『誤用から学ぶ中国語 ── 基礎から応用まで ──』，白帝社。
韓国・国立国語院著『標準 韓国語文法辞典』，アルク(2012)。
菅野裕臣 1986.「朝鮮語のテンスとアスペクト」，『学習院大学言語共同研究所紀要』第9号，学習院大学言語共同研究所，60-70頁。
菅野裕臣 1990.「アスペクト ── 朝鮮語と日本語 ──」，『国文学 解釈と鑑賞』1990年1月号，至文堂，117-122頁。
許宰硯 2004.「現代日本語の過去テンスについて ── 韓国語との対照の観点から ──」，『筑波日本語研究』第9号，筑波大学 人文社会科学研究科 日本語学研究室，14-35頁。
許宰硯 2005.「状態化形式のテンスについて ── 韓国語との対照の観点から ──」，『筑波日本語研究』第10号，筑波大学 人文社会科学研究科 日本語学研究室，88-107頁。
金京愛 2006.「現代韓国語のアスペクト形式〈-ko iss-〉の意味分析：日本語の『-ている』との比較の観点から」，『京都大学言語学研究』第25号，京都大学，187-215頁。
工藤真由美 1982.「シテイル形式の意味のあり方」，『日本語学』第1巻第2号，明治書院，38-47頁。
國廣哲彌 1982.「日本語・英語」，『講座 日本語学11 外国語との対照Ⅱ』，明治書院，2-18頁(再版 1984)。
高正道 1986.「現代韓国語動詞のアスペクト」，『待兼山論叢 日本学篇』第20号，大阪大学大学院文学研究科・文学部，39-55頁。
江田すみれ 2013.『「ている」「ていた」「ていない」のアスペクト ── 異なるジャンルのテクストにおける使用状況とその用法 ──』，くろしお出版。
輿水優 1985.『中国語の語法の話 ── 中国語文法概論 ──』，光生館。
近藤安月子 2008.『日本語教師を目指す人のための 日本語学入門』，研究社。
石賢敬 2014.「テンスとアスペクト」，沖森卓也・曺喜澈編著『日本語ライブラリー 韓国語と日本語』，朝倉書店，59-66頁。
高橋太郎・金子尚一・金田章宏・齋美智子・鈴木泰・須田淳一・松本泰丈 2005.『日本語の文法』，ひつじ書房。
高橋弥守彦・姜林森・金満生・朱春躍編著『中国語虚詞類義語用例辞典』，白帝社(1995)。
田辺貞之助 2007.『フランス文法大全』，白水社。
張岩紅 2004.「"过"に訳す日本語表現について ── 『スル』『シタ』『シテイル』『シテイタ』の体系を中心に ──」，『日中言語対照研究論集』第6号，日中対照言語学会(白帝社)，65-78頁。
張暁鈴著／原田寿美子・張勤訳 2001.「『过』と『了』の関係についての試論」，于康・張勤編『中国語言語学情報4 テンスとアスペクトⅢ』，好文出版，77-94頁。(原著：张晓铃 1986.＜试论"过"与"了"的关系＞，≪语言教学与研究≫1986年第1期，北京语言文化大学出版社)
張麟声 2001.『日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉20例』，スリーエーネットワーク。
張黎・佐藤晴彦・内田慶市 1997.『中国語表現のポイント99』，好文出版。
寺村秀夫 1984.『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』，くろしお出版。
『東京外国語大学言語モジュール 朝鮮語 文法モジュール』，東京外国語大学(2015)。
成戸浩嗣 2009.『トコロ(空間)表現をめぐる日中対照研究』，好文出版。
成戸浩嗣 2014.『日中・日仏対照研究』，好文出版。
成戸浩嗣 2020.「韓国語の進行表現、状態表現をめぐる対照研究方法論 ── 中国語・フランス語・日本語の視点から ──」，『愛知学泉大学紀要』第3巻第1号，45-66頁。
成戸浩嗣 2021.「韓国語動詞の過去形と日本語の『Vテイル／タ』をめぐる対照研究方法論 ── 中国語・日本語の視点から ──」，『愛知学泉大学紀要』第3巻第2号，33-53頁。
日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』，大修館書店(2005)。
日本語文法学会編『日本語文法事典』，大修館書店(2014)。
髭郁彦・川島浩一郎・渡邊淳也編著／安西記世子・小倉博行・酒井智宏著『フランス語学小事典』，駿河台出版社(2011)。
久松健一 1999.『英語がわかればフランス語はできる！』，駿河台出版社。
久松健一 2002.『英仏日CD付 これは似ている！ 英仏基本構文100＋95』，駿河台出版社。
久松健一 2011.『ケータイ［万能］フランス語文法 実践講義ノート』，駿河台出版社。
福嶋健伸 2011.「～テイルの成立とその発達」，青木博史編『日本語文法の歴史と変化』，くろしお出版，119-149頁。
藤井正 1976.「『動詞＋ている』の意味」，金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』，むぎ書房，97-116頁。(原著は藤井正 1966.)
北京大学中国語言文学系現代漢語教研室編／松岡榮志・古川裕監訳『現代中国語総説』，三省堂(2004)。
白峰子(ペク・ポンジャ)著／大井秀明訳『新装版 韓国語文法辞典』，三修社(2019)。
前田綱紀 1982.「『……している，……してある』の日本語朝鮮語対照」，『日本語教育』第48号，日本語教育学会，66-76頁。
町田健 1989.『日本語の時制とアスペクト』，アルク。

目黒士門 2000.『現代フランス広文典』，白水社。
安田吉美・孫洛範・箕輪吉次・李淑子編著『엣센스 韓日辭典』，民衆書林(2006)。
山田敏弘 2009.『日本語のしくみ』，白水社。
油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高橋淑郎編『小学館 日韓辞典』，小学館(2008)。
李炫淨 2013.「韓国語と日本語の過去時制の比較分析(その１) ── 『状態性』を表す『-었-』について ── 」，『近畿大学文芸学部論集』第 25 巻第 1 号，41-60 頁。
李忠均 2010.「日韓両言語のアスペクト形式の様相に関する研究 ── 翻訳書を中心に ── 」，『日本語学論集』第 6 号，東京大学大学院国語研究室，24-37 頁。
李忠均 2018.「韓国語テキストにおけるアスペクト表現」，『神奈川大学 言語研究』第 40 巻，神奈川大学言語研究センター，187-207 頁。
李姫子・李鐘禧著／五十嵐孔一・申悠琳訳『韓国語文法 語尾・助詞辞典』，スリーエーネットワーク(2010)。
刘月华・潘文娱・故韡著／相原茂監訳『現代中国語文法総覧』，くろしお出版(合訂本 1996)。
呂才楨・載惠本・賈永芬著／荒屋勸編訳『日本人の誤りやすい中国語表現 300 例』，光生館(1986)。
呂叔湘主編／牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典≪現代漢語八百詞増訂本≫日本語版』，東方書店(改訂版 2003)。
六鹿豊 2016.『NHK 出版 これならわかる フランス語文法 入門から上級まで』，NHK 出版。

許宰硯 2010.「일본어와 한국어의 과거형에 대하여 ── 상태성 유무의 관점에서 ── 」，『日本語教育研究』第 18 輯。
刘月华・潘文娱・故韡≪实用现代汉语语法≫，外语教学与研究出版社(1983)。
吕叔湘主编≪现代汉语八百词(增订本)≫，商务印书馆(1999)。
张岩红 2018.＜从日汉对比的角度谈谈「シテイタ」的意义＞，汉日对比语言学研究会编≪汉日语言对比研究论丛≫第 9 辑，华东理工大学出版社，39-47 页。

例文出典

村上春樹『1Q84』，新潮社(2009)。

≪话说日本≫，世界图书出版社(1999)。
孙犁≪孙犁小说选≫，中国文学出版社(1999)。

（原稿受理年月日：2021 年 9 月 13 日）